

令和4年度（対象3年度）

南木曾町地方創生総合戦略

政策評価報告書

内 容

南木曾町地方創生総合戦略の評価について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

**基本目標と重要業績評価指標（KPI）**

基本戦略1

暮らしを守る基盤づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

基本戦略2

子育て世代が戻ってこられる雇用の創出・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

基本戦略3

子育て世代のUIJターンの拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

基本戦略4

子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり・・・・・・・・・・ 40

南木曾町

## 南木曾町地方創生総合戦略の評価について

### 1 趣旨

南木曾町地方創生総合戦略は PDCA サイクルを活用しながら着実に推進することとしており、進捗について毎年度評価を実施し、今後の施策や事業の改善に活用します。

地方創生総合戦略会議や地方創生検証会議など外部の目を確保しながら客観的に基本目標及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を把握し、評価結果は議会に報告すると共に町民に公表します。

### 2 地方創生総合戦略の進捗状況の概要

令和 3 年度の総合戦略に掲載されている基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況の概要は以下のとおりです。

#### （1）基本目標（数値目標）の進捗状況

4 つの基本戦略に掲げた 10 個の数値目標について、目標達成に向けた進捗状況を 3 段階で評価しました。

| 基本戦略                         | 指標名  | R3<br>目安値          | R3<br>実績値        | 進捗<br>区分   |
|------------------------------|--|--------------------|------------------|------------|
| 暮らしを守る基盤づくり                  | 地域支え合いの会活動件数<br>R2：400 件 → R6：300 件          | 300 件              | 271 件            | 概ね<br>順調   |
|                              | 中山間地直接支払制度加入面積<br>R2：172ha → R6：172ha        | 172ha              | 165ha            | 概ね<br>順調   |
|                              | 商工事業者数（商工会員数）<br>R2：265 団体 → R6：265 団体       | 265 団体             | 246 団体           | 概ね<br>順調   |
| 子育て世代が戻ってこられる雇用の創出           | 観光宿泊者数<br>R2：130,000 人 → R6：130,000 人        | 130,000 人          | 96,200 人         | 努力を<br>要する |
|                              | 新規林業従事者数<br>R2：1 人 → R6：（累計）5 人              | 1 人                | 0 人              | 努力を<br>要する |
|                              | 誘致した企業<br>R2：－ → R6：（累計）1 企業                 | －<br>（累計）          | 0 企業<br>（累計）     | 実績値<br>なし  |
| 子育て世代の UIJ ターンの拡大            | 20 代～30 代の転入者数<br>H27～R1：235 人→R2～R6：380 人以上 | 284 人以上<br>（R3 累計） | 355 人<br>（R3 累計） | 順調         |
|                              | 20 代～30 代の転出者数<br>H27～R1：258 人→R2～R6：340 人以下 | 307 人以下<br>（R3 累計） | 395 人<br>（R3 累計） | 努力を<br>要する |
| 子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり | 婚姻届出数<br>R2：15 件 → R6：15 件                   | 15 件               | 10 件             | 努力を<br>要する |
|                              | 出生数<br>R2：20 人 → R6：20 人                     | 20 人               | 12 人             | 努力を<br>要する |

## (2) 重要業績評価指標 (KPI) の進捗状況

31 個の重要業績評価指標(KPI)について、基本目標(数値目標)と同様に3段階で評価しました。

### 【進捗区分】

概ね以下の基準に従って進捗状況进行评估しています。(下記の基準になじまない指標もあるため大まかな参考として活用)

順調 : 実績値が目安値以上

概ね順調 : 実績値が80%以上

努力を要する : 実績値が80%未満

実績値なし : 実績値が無いため評価できなかったもの

| 基本戦略                         | 順調        | 概ね順調     | 努力を要する    | 実績値なし    | 計         |
|------------------------------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|
| 暮らしを守る基盤づくり                  | 4 (44.5)  | 2 (22.2) | 3 (33.3)  | 0 (0.0)  | 9 (100.0) |
| 子育て世代が戻ってこられる雇用の創出           | 2 (25.0)  | 1 (12.5) | 4 (50.0)  | 1 (12.5) | 8 (100.0) |
| 子育て世代の UIJ ターンの拡大            | 3 (42.8)  | 0 (0.0)  | 3 (42.8)  | 1 (14.4) | 7 (100.0) |
| 子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり | 3 (42.8)  | 2 (28.6) | 2 (28.6)  | 0 (0.0)  | 7 (100.0) |
| 計 (%)                        | 12 (38.7) | 5 (16.1) | 12 (38.7) | 2 (6.5)  | 31(100.0) |

※四捨五入により割合が100%にならない項目あり

### (3) 具体的な取組みの実施状況

総合戦略に掲載されている具体的な取組ごとにその実施状況と事業効果を検証しました。

#### 【実施状況】

以下の基準に従って実施状況を区分しています。

- ◎ 完了 : 令和3年度中、もしくは令和2年度に取組みが完了したもの
- 実施中 : 現在取組み中のもの又は年度を通して継続的に実施するもの
- △ 実施予定 : 現在取組みを予定しているもの
- × 実施未定 : 取組む目途が立っていないもの

| 基本戦略                         | ◎完了     | ○実施中       | △実施予定   | ×実施未定   | 計           |
|------------------------------|---------|------------|---------|---------|-------------|
| 暮らしを守る基盤づくり                  | 2 (4.3) | 44 (95.7)  | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 46 (100.0)  |
| 子育て世代が戻ってこられる雇用の創出           | 0 (0.0) | 49 (100.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 49 (100.0)  |
| 子育て世代のUIJターンの拡大              | 0 (0.0) | 24 (100.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 24 (100.0)  |
| 子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり | 0 (0.0) | 44 (100.0) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 44 (100.0)  |
| 計 (%)                        | 2 (1.2) | 161 (98.8) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 163 (100.0) |

※四捨五入により割合が100%にならない項目あり

### 【事業効果】

総合戦略に掲載されている具体的な取組のうち実施状況が「◎ 完了」、「○ 実施中」のものについて、以下の基準に従って検証しています。

- A 非常に効果的
- B 概ね効果的
- C あまり効果的でない
- D ほとんど効果がない
- E 未実施

| 基本戦略                         | A 非常に効果的  | B 概ね効果的   | C あまり効果的でない | D ほとんど効果がない | E 未実施   | 計           |
|------------------------------|-----------|-----------|-------------|-------------|---------|-------------|
| 暮らしを守る基盤づくり                  | 20 (43.5) | 22 (47.9) | 3(6.5)      | 0 (0.0)     | 1 (2.1) | 46 (100.0)  |
| 子育て世代が戻ってこられる雇用の創出           | 14 (28.5) | 27 (55.1) | 5 (10.2)    | 0 (0.0)     | 3 (6.1) | 49 (100.0)  |
| 子育て世代の UIJ ターンの拡大            | 6 (25.0)  | 14 (58.3) | 3 (12.5)    | 0 (0.0)     | 1 (4.1) | 24 (100.0)  |
| 子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり | 24 (54.5) | 14 (31.8) | 2 (4.5)     | 0 (0.0)     | 4 (9.0) | 44 (100.0)  |
| 計 (%)                        | 64 (39.3) | 77 (47.2) | 13 (8.0)    | 0 (0.0)     | 9 (5.5) | 163 (100.0) |

※四捨五入により割合が 100%にならない項目あり

## 基本戦略 1

# 暮らしを守る基盤づくり

### 基本目標

自然と文化、地域のつながりを土台とした確かな暮らしを南木曽一丸で創造する。

### 数値目標の進捗状況

| 指標名            | 年    | 単位 | 基準値 | R2     | R3   | R4  | 目標 (R6) |
|----------------|------|----|-----|--------|------|-----|---------|
| 地域支え合いの会活動件数   | 目安値  | 件  | H30 | 400    | 300  | 300 | 300     |
|                | 実績値  |    | 382 | 299    | 271  |     |         |
|                | 進捗区分 |    |     | 努力を要する | 概ね順調 |     |         |
| 中山間地直接支払制度加入面積 | 目安値  | ha | H30 | 172    | 172  | 172 | 172     |
|                | 実績値  |    | 172 | 165    | 165  |     |         |
|                | 進捗区分 |    |     | 概ね順調   | 概ね順調 |     |         |
| 商業事業者数（商工会員数）  | 目安値  | 団体 | H30 | 265    | 265  | 265 | 265     |
|                | 実績値  |    | 262 | 250    | 246  |     |         |
|                | 進捗区分 |    |     | 概ね順調   | 概ね順調 |     |         |

### 総合分析

○人口減少社会においても、町民が将来に渡って夢や希望持って幸せに暮らすことができるまちづくりを進めるための施策を実施した。

○数値目標や基本目標に係る重要業績評価指標（KPI）は12項目中4項目が「順調」、5項目が「概ね順調」、3項目が「努力を要する」となった。

○各具体的な取組みについての事業効果の評価は、コロナ禍ではあったが概ねA又はBであり実施している個別の取組みごとの効果は良好である。このため、具体的な取組みを有機的に結びつけてより効果の上がる取組みにしていくことが重要である。

○新しい加工食品の販売額は、数値目標を大幅に達成しており、各所と連携し更なる拡大を進めていく。全体的には概ね順調であり、若者まちづくり事業に関してはオンラインでの会議や意見交換を導入することによって事業成果が上がっている。地域支え合いの会の活動のように人の集まりによって行われるものについては、新型コロナウイルスの影響もあり数値目標を達成できなかった。

## 重要業績評価指標（KPI）と具体的な取組みの進捗状況

### 施策 1 - 1 自然と共生し人がつながる暮らしの実現

| 指標名 (KPI)   | 年       | 単位  | 基準値  | R2     | R3     | R4 | 目標 (R6)     |
|-------------|---------|---|------|--------|--------|----|-------------|
| 緩衝帯整備面積     | 目安値     | ha  | H30  | 1      | 1      | 1  | 2           |
|             | 実績値     |   | 1.74 | 0.4    | 0.6    |    |             |
|             | 進捗区分    |   |      | 努力を要する | 努力を要する |    |             |
|             | 進捗状況の分析 | 令和3年度は渡島地区、与川一区地区の緩衝帯整備を行った。今後は地域が緩衝帯整備された箇所の管理を担っていくこととなる。   |      |        |        |    |             |
|             | 今後の取組み  | 緩衝帯は効果があると考えられ、更に強化していくこととしているが、有害個体の数を減らすことにはなっていない。鳥獣被害対策実施隊との連携を密にして現対応を継続し、粘り強く実施していく必要がある。                               |      |        |        |    |             |
| 協働のまちづくり事業数 | 目安値     | 事業  | H30  | 16     | 17     | 18 | 20          |
|             | 実績値     |   | 15   | 11     | 12     |    |             |
|             | 進捗区分    |   |      | 努力を要する | 努力を要する |    |             |
|             | 進捗状況の分析 | 目標を下回る結果となった。   |      |        |        |    |             |
|             | 今後の取組み  | 継続的に地域に情報提供を行い事業の周知を促す。   |      |        |        |    |             |
| 防災マップ取組地区数  | 目安値     | 地区  | H30  | 53     | 55     | 59 | 18<br>※2 順目 |
|             | 実績値     |   | 45   | 53     | 54     |    |             |
|             | 進捗区分    |   |      | 順調     | 概ね順調   |    |             |
|             | 進捗状況の分析 | R3年度は田立地区（6地区）で実施することにより全地区を1巡する予定であったが、コロナウイルス感染症感染拡大の影響により中止した。しかし、多治見砂防国道事務所主催で妻籠の一部地区を対象に防災ワークショップを開催し、地域の状況を再確認することができた。 |      |        |        |    |             |
|             | 今後の取組み  | 令和3年度中止となった田立地区での拡大版ハザードマップを使った地域の点検等を実施予定。田立地区で一区切りとなるため、翌年度以降の取り組みについて検討する。   |      |        |        |    |             |

## 1 自然との共生・景観の保存

| 具体的な取組名                  | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み   |
|--------------------------|------|--|------|--|
| 美しいまちづくり事業<br>(ポイ捨て防止活動) | ○    | 住民を対象とした環境美化の取り組みとして例年実施している町内一斉清掃はコロナウイルス感染症対策により春・秋の2回実施(可燃物・不燃物)を行い住民の意識向上を図った。また、国道等におけるポイ捨て巡視活動については、監視員5名による啓発活動を平日に行い、美しいまちづくりに努めた。   | B    | 環境美化活動への意識付けとして住民による町内一斉清掃を継続し取組んでいく。また、町独自の監視員、不法投棄防止監視員との連携による、国道沿いを中心としたポイ捨て防止の啓発強化による、美しいまちづくりを目指していく。   |
| 文化財の保存                   | ○    | 文化財も経年劣化で損傷していく事があるが、国文化財5(7)県文化財7町文化財50、と件数が多いため、必要に応じて順番に修繕等を行ってきている。特に重伝建妻籠宿は、特定されている建物の件数も多く、保存開始から50年以上が経ち保存修繕の必要な箇所が増えている。重伝建保存修理実績 R3:1棟重要文化財の保存修理 R3:1件小規模修理実績 R3:8棟歴史の道整備実績 R3:保存活用の基本方針の検討等<br>他 | B    | 令和3年度と同様に、妻籠宿保存地区内建造物の保存・維持工事や各種文化財の維持修繕措置を行っていく。<br>重伝建保存修理予定 R4:1棟<br>本陣修景事業予定 R4:1件<br>小規模修理 R4:棟数未定<br>歴史の道整備実績 R4:保存活用計画策定委員会の開催により整備計画の検討<br>他 |
| 緩衝帯による里山再生               | ○    | 令和3年度は渡島地区、与川一区地区の緩衝帯整備を行った。今後は地域が緩衝帯整備された箇所の管理を担っていくこととなる。  | B    | 緩衝帯は効果があると考えられ、更に強化していくこととしているが、有害個体の数を減らすことにはなっていない。鳥獣被害対策実施隊との連携を密にして現対応を継続し、粘り強く実施していく必要がある。  |

## 2 地域の主体性・つながりの強化

| 具体的な取組名   | 実施状況 | 実施状況の説明             | 事業効果 | 今後の取組み   |
|-----------|------|---------------------|------|--|
| 若者まちづくり会議 | ○    | オンラインによる意見交換が主となった。 | B    | R3の活動のように中山道ウォーキング等やSNS発信について話し合えた。若者が一つのテーマについて意見交換できる場であるため、継続して進めていく。 |



|                  |   |   |   |  |
|------------------|---|---|---|--|
| 地域支え合いの会への支援     | ○ | コロナウイルス感染拡大防止のため活動自粛をした期間があったため、利用回数が減少している。需要に関しては供給されている。                                   | B | 今後も高齢者が住み慣れた自宅で安心して暮らせるよう、協力会員の拡充や活動の周知を進めていく。   |
| お気軽ミニ集会          | ○ | 令和3年度におけるお気軽ミニ集会の開催については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、開催依頼は無かった。  | B | 開催要望も年々減少傾向ではあるが、少人数で町長と直接話ができ、地域とのつながりを図る場として貴重な機会であるため、令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策に努めつつ住民の方からの希望により開催を継続していく。 |
| 地域振興協議会への支援      | ○ | 会長会議を2度にわたって開催し、各協議会から挙げられた要望に対して回答を行った。令和2年度には、まちづくり会議の統合や事務局体制の見直しを行い、より効率的で現状に即した体制となっている。 | B | 役場職員による地域振興協議会事務局を配置し、地元と共同で地域課題の解決等にあたる現在の形を維持・継続していく。  |
| 公民館活動等支援         | ○ | 例年どおり活動支援として補助金を交付した。感染症拡大防止により中止せざるを得なかった事業分の経費については、今後の活動も見据え、必要な物品等の購入に充てるよう各分館に依頼した。      | A | 密集をさける等、新しい生活様式に即した公民館活動について、本館、分館共に検討のうえ、実施に向けて努める。   |
| 若者まちづくり交流イベントの開催 | ○ | コロナ禍でイベント開催について意見を交換し、中山道ウォーク、ゴミ拾を行った。SNSでの情報発信を行った。  | B | 少人数でも効果が感じられる事業を進めていく。SNSでの情報発信など、若者目線の感覚でニッチな町の情報を発信する等、感性をくすぐる遊びゴコロ溢れる取り組みを行う。                         |
| コミュニティスペースの活用    | ○ | 読書地区の空き店舗をコミュニティスペースとして活用した。コロナ禍によりイベント開催については感染対策を十分行い実施した。                                  | B | 住民の方や地域おこし協力隊が企画したイベントを定期的に行い開催し、地域住民の交流の場として運営していく。   |
| 妻籠町並み交流センター建設    | ○ | 計画どおり、妻籠町並み交流センター建設工事に着手し、完成した。   | A | 令和4年4月「妻籠町並み交流センター」運用開始<br>外構工事、妻籠分館取壊工事、妻籠駐車場建設工事について、年度内に着工し、完了するように努める。                               |

### 3 地域防災機能の向上

| 具体的な取組名                | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------------|------|--|------|---|
| 防災計画の推進                | ○    | 災害警戒体制など災害時の対応に活用した。   | B    | 刻々と変化する状況（気象状況、社会要請など）に対し、適格に対応するため計画の見直しを行う。   |
| 防災施設の整備                | ○    | 40t 防火水槽 1 箇所(夏焼)新設。その他随時小修繕を実施した。   | B    | 今後も継続的に活動支援を行う。   |
| 自主防災組織への援助<br>(防災マップ等) | ○    | 田立地区で拡大版ハザードマップを使った地域の点検等を行う予定であったが、コロナウイルス感染症感染拡大の時期であったため中止となってしまった。しかし、多治見砂防国道事務所主催で妻籠の一部地区を対象に防災ワークショップを開催し、地域の状況を再確認することができた。   | B    | 令和3年度中止となった田立地区での拡大版ハザードマップを使った地域の点検等を実施予定。田立地区で一区切りとなるため、翌年度以降の取り組みについて検討する。   |
| 消防団への活動支援              | ○    | 消防団運営費等に対し、活動費用面等の支援を行った。  | B    | 今後も継続的に活動支援を行う。   |
| 治山・治水・砂防事業の推進          | ○    | <p>■ 治山事業<br/>治山については、地域要望に基づき現地確認を行い、長野県へ治山事業要望を実施している。町外者が山林所有者であることが多くなっており現地の状況が伝わりにくい中であるが、実施に向けた保安林指定を先行して実施できるよう進めている。</p> <p>■ 治水・砂防事業<br/>国（多治見砂防国道事務所）長野県（砂防課）との連携によるし、砂防事業の推進・整備として、桂川砂防工事など、災害から町を守るため事業が計画的に進められている。</p> <p>多治見砂防国道事務所関係事業<br/>・ 和合蛇抜沢沈砂池 本体工事<br/>・ 地蔵沢砂防堰堤<br/>取付道路に伴う用地・補償<br/>・ 桂川砂防堰堤事業<br/>取付道路工事</p> | A    | <p>■ 農林係<br/>引き続き治山については、地域要望に基づき現地確認を行い、長野県へ治山事業要望を実施していく。</p> <p>■ 建設係<br/>引き続き、国、長野県と連携し、砂防事業の推進・整備による、安全で住みよいまちづくりを目指していく。また、町独自の「砂防の日」の設定など、住民に向けた啓発活動にも取り組んでいく。今年度は和合蛇抜沢沈砂池工の本体工事と、桂川砂防堰堤の取付道路工事が引き続き実施される予定となっている。</p> <p>南木曾建設係では、梨子沢堰堤からの緊急新設事業、伊勢小屋沢河畔林整備事業を実施する計画となっている。</p> <p>多治見砂防国道事務所関係事業<br/>・ 和合蛇抜沢沈砂池本体工事<br/>・ 地蔵沢砂防堰堤 取付道路工事</p> |

|                     |   |  |   |  |
|---------------------|---|--|---|--|
|                     |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・梨子沢砂防流路工に伴う<br/>用地・補償<br/>長野県関係</li> <li>・木曽川緊急浚渫事業 R2～R6</li> <li>・与川河川整備事業 R2～R6<br/>南木曽町関係</li> <li>・長根沢 河畔林整備事業<br/>2年目</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・桂川砂防堰堤事業<br/>取付道路工事</li> <li>・梨子沢砂防流路工<br/>取付道路工事<br/>長野県関係事業</li> <li>・木曽川緊急浚渫事業 R2～R6</li> <li>・与川河川整備事業 R2～R6<br/>南木曽町関係事業</li> <li>・伊勢小屋沢 河畔林整備事業</li> </ul> |
| CATV光化事業<br>(FTTH化) | ◎ | 南木曽町では令和2年度に、条件不利地域における4K・8Kを活用した次世代放送・通信サービスの早期実現及び受信環境確保のためFTTH(光)化事業が実施され、全世帯に光回線が整備された。  | A | 今後、木曽広域情報センターと連携をとりながら光回線を活用した施策を検討していく。   |
| 簡易給水施設整備            | ○ | 人口減少、高齢化により維持管理が困難となっている簡易水道以外の小規模水道施設について、修繕費、管理面での支援を行うことにより、安全で清潔な飲料水の供給に努めている。また、近隣する水道施設の統合など、将来的な維持管理体制の提案も行っている。令和3年度は胡桃田水道取水施設の構築を行った。                                 | A | 給水施設の維持管理などの問題から、小規模施設の統合を地域と検討し、継続した飲料水の供給について支援を行う。令和4年度においては、与川地区、向田水道と柿平水道の統合するための改修を行う。   |
| 国土強靱化計画の策定          | ◎ | 国の方針転換により令和3年度の補助金・交付金の配分から、国土強靱化地域計画への記載が「要件化」されたことに伴い令和2年度に策定した。   | A | 次回の見直しは、令和7年度となるが、別表の事業一覧は、実施計画の見直しとともに更新を行う。  |

#### 4 未来技術の活用

| 具体的な取組名         | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み                         |
|-----------------|------|---|------|--------------------------------|
| 未来技術の活用に向けた調査研究 | ○    | 事業として実績なし。コロナ禍で、オンライン会議や面談等の開催が当たり前に行われるようになった。 | E    | 引き続き地域に暮らす住民にとって良い取り組みを研究していく。 |

## 施策1-2 健康で安全な食を支える地産地消の推進

| 指標名 (KPI)   | 年       | 単位  | 基準値 | R2   | R3   | R4  | 目標 (R6) |
|-------------|---------|---|-----|------|------|-----|---------|
| 遊休農地への放牧面積  | 目安値     | ha  | H30 | 6    | 6    | 6.5 | 6.5     |
|             | 実績値     |   | 6   | 5    | 5.5  |     |         |
|             | 進捗区分    |   |     | 概ね順調 | 概ね順調 |     |         |
|             | 進捗状況の分析 | 畜舎から遠方での放牧は減少傾向にあるが、移動が容易な箇所での放牧が継続されている。羊の放牧が増えているため放牧面積の増になっている。        |     |      |      |     |         |
|             | 今後の取組み  | 家畜農家から相談があれば、農業委員会と協力して遊休農地の斡旋をしていく。                                      |     |      |      |     |         |
| 新しい加工食品の販売額 | 目安値     | 千円  | H30 | 200  | 400  | 600 | 1,000   |
|             | 実績値     |   | 100 | 243  | 640  |     |         |
|             | 進捗区分    |   |     | 順調   | 順調   |     |         |
|             | 進捗状況の分析 | 長野県、町農技連、えごま同好会の協同により、えごま栽培の実証、講習会を年4回開催した。これにより栽培面積の増、えごま油へ加工、販売額が増となった。 |     |      |      |     |         |
|             | 今後の取組み  | 引続き関係者と協同し、えごま栽培の実証を行い、効率の良い栽培、収穫量の増を検証する。                                |     |      |      |     |         |

### 1 農地の有効活用の促進

| 具体的な取組名        | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み                                     |
|----------------|------|--|------|--|
| 農家への経済的支援      | ○    | 中山間直接支払及び多面的機能支払により、農地や施設の維持補修等の費用を支援。中山間直払 35,353 千円、多面的 5,439 千円、経営所得安定対策交付金 8,804 千円を実施。町制度資金や利子補給金を予算措置。 | A    | 事務的な支援により農家の負担を軽減し、各制度の継続を図る。              |
| 有害鳥獣対策の推進      | ○    | 鳥獣被害対策実施隊・緩衝帯整備・追払い・生体調査等の長野県で推進している対策を取り入れて行っている。   | B    | 鳥獣被害対策実施隊との連携を密にして現対応を継続し、粘り強く実施していく必要がある。 |
| 畜産による遊休農地活用の推進 | ○    | 畜産農家は効率的に放牧を行いたいため、畜舎から遠方での放牧を止め、近隣での放牧を行っている。牛の放牧は減少傾向にあるが、羊の放牧が増加傾向にある。                                    | B    | 畜産農家の要望により、農業委員会と協力して遊休農地の斡旋を行う。           |

|            |   |  |   |  |
|------------|---|--|---|--|
| 協同耕作の推進    | ○ | えごま栽培の実証ほ場で、えごま同好会による協同耕作を実施。栽培講習会を4回開催し、新たな耕作者の増を図った。県及び農技連で技術的支援をしている。 | A | 引続き、長野県、町農技連と協力し、実証を続ける。実証結果について周知し、新たな耕作者を増やしていく。 |
| 中山間地直接支払制度 | ○ | 26の集落協定、約165ha、交付金額35,353千円で農地維持活動を実施。                                   | A | 事務的支援により各集落の負担を軽減し、活動の継続を支援する。                     |

## 2 農業の高度化・発展

| 具体的な取組名         | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み   |
|-----------------|------|--|------|--|
| 農業の活性化事業        | ○    | 地産地消による軽トラ市を実施及び教委と協力し学校への食材提供を実施。えごま栽培の講習会を実施し、新規の栽培者の確保に努めている。                         | B    | コロナ禍などにより軽トラ市のあり方について検討をしている。対応の一つとして、野菜自動販売機を導入し、農家の時間の有効活用、販路の拡大に取り組む。   |
| 園芸特産振興助成事業      | ○    | パイプハウスの設置事業2件、補助金額359千円。学校給食への食材提供の運搬補助111千円。  | B    | パイプハウス設置補助金、学校給食運搬補助を継続。野菜自動販売機の設置。  |
| 加工食品の開発         | ○    | えごま油への加工が進んでいる。収穫量の6割程度をえごま油に加工している。   | A    | えごま同好会と協力して、えごまと地元産の食材をコラボし、新たな加工食品の開発を検討していく。                             |
| 全国的に販売できるしくみづくり | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により各長野県事務所等への働きかけや商品の陳列を実施したいが、進んでいないのが現状。新たな仕組みづくりの確立が課題。小規模でも販路確保としては重要 | C    | 各長野県事務所や県内外のイベントなどへの事業者の積極的参加による直接的なPRの機会を更に推進する。また、ふるさと納税返礼品として活用も継続していく。 |
| 農業と観光業の連携       | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により連携を予定していたイベントが中止となり実施できなかった。   | C    | 観光イベントとのタイアップ以外にふるさと納税返礼品として活用も継続していく。                                     |

|                       |          |  |   |
|-----------------------|----------|--|---|
| <p>学校給食への地元食材利用</p>   | <p>○</p> | <p>■総務学校<br/>農林係、地産地消推進会議の協力を得ながら、地元の四季の野菜を食べてもらうことができました。主食である米も地元南部産コシヒカリを使用し、町費で100%補助を行った。</p> <p>■農林<br/>学校給食への食材提供運搬費の補助を実施。</p> | <p>A</p> <p>■総務学校<br/>地元の旬の野菜、食材等を給食に取り入れることで食の安全やおいしい給食で残菜減、食育に役立てたい。米の購入費を町費全額負担にすることで、保護者負担の軽減を図る。</p> <p>■農林<br/>引続き、運搬補助を実施する。</p> |
| <p>南木曾薬草検討委員会への支援</p> | <p>○</p> | <p>国等からの研修会、技術支援等の情報提供を実施。南木曾薬草の会検討委員会への参加を予定。</p>   | <p>B</p> <p>引続き、薬草に関する研修会、技術等の情報提供を行う。</p>  |

施策1-3 買い物・交通・医療弱者がいないまちづくり

| 指標名 (KPI)  | 年       | 単位  | 基準値    | R2     | R3     | R4     | 目標 (R6) |
|------------|---------|---|--------|--------|--------|--------|---------|
| 年間バス利用者数   | 目安値     | 人   | H30    | 62,000 | 62,000 | 62,000 | 62,000  |
|            | 実績値     |   | 61,966 | 22,093 | 21,419 |        |         |
|            | 進捗区分    |   |        | 努力を要する | 努力を要する |        |         |
|            | 進捗状況の分析 | 令和2年度に続く新型コロナの影響により観光客数の減少が続いたが、地域住民の足としては感染対策など行い役割を果たせていた。数値は令和4年3月時点の目安。     |        |        |        |        |         |
|            | 今後の取組み  | 交通弱者と観光客がより利用しやすい運行方法を検討していく。山間地域の与川・北部地区のデマンドタクシーの実施を行うなどより地域に寄り添った公共交通の運行を行う。 |        |        |        |        |         |
| 経営指導件数     | 目安値     | 件   | H30    | 320    | 320    | 330    | 330     |
|            | 実績値     |   | 320    | 913    | 913    |        |         |
|            | 進捗区分    |   |        | 順調     | 順調     |        |         |
|            | 進捗状況の分析 | 新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の悪化のため、指導件数が大幅に増加した。                                      |        |        |        |        |         |
|            | 今後の取組み  | 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、商工会と連携して事業者支援に取り組む。                                     |        |        |        |        |         |
| 木曽病院線への利用者 | 目安値     | 人   | H30    | 50     | 50     | 50     | 50      |
|            | 実績値     |   | 13     | 232    | 321    |        |         |
|            | 進捗区分    |   |        | 順調     | 順調     |        |         |
|            | 進捗状況の分析 | 交通弱者の利用が定着しており、令和2年度に続き実績が増加した。   |        |        |        |        |         |
|            | 今後の取組み  | 地域公共交通策定により、効率と効果を高めるための取り組みの一環として木曽病院線の乗車料金有料化を検討していく。                         |        |        |        |        |         |
| 国保健診受診率    | 目安値     | %   | H30    | 70     | 70     | 70     | 70      |
|            | 実績値     |   | 72.4   | 70     | 70     |        |         |
|            | 進捗区分    |   |        | 順調     | 順調     |        |         |
|            | 進捗状況の分析 | 意向調査を基に名簿を作成し、個別に対応できるように整理をし、「受けない」「未回答」であった場合、受診勧奨を行うことで健診受診率の向上につながった。       |        |        |        |        |         |
|            | 今後の取組み  | 国保ヘルスアップ事業を活用し、積極的に受診勧奨を行うことで健診受診率の向上を図る。                                       |        |        |        |        |         |

## 1 町内商店の維持・革新

| 具体的な取組名                  | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|--------------------------|------|--|------|---|
| 商工会への支援<br>(経営改善・事業承継支援) | ○    | コロナ過において事業者の経営指導や経済対策に商工会が精力的に活動し、事業者の支援に繋がった。   | A    | 地域の事業者にとって商工会の存在・指導は不可欠であり商工業の維持と発展に向けた助言指導、融資斡旋の相談など多岐にわたる事業であるため、継続的に支援を実施する。 |
| 中小企業制度資金の活用              | ○    | 新型コロナウイルス感染症がセーフティネット4号に指定され、影響を受けた事業者による制度資金の活用が大幅に増加した。                                | A    | 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、引き続き制度資金の活用を商工会と連携して周知する。                               |
| 地域消費拡大事業<br>(地域商品券)      | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域経済への対策として地域限定商品券を町民へ3回無料配布(一部プレミアム付販売)を行い、商品券利用額約9,900万円が町内町費に繋がった。 | A    | 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、長野県の補助事業を活用してプレミアム商品券の販売を実施する。                          |
| 経営指導                     | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の悪化のため、指導件数が大幅に増加した。   | A    | 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、商工会と連携して事業者支援に取り組む。                                     |



|                   |          |   |          |   |
|-------------------|----------|---|----------|---|
| <p>買い物弱者対策の検討</p> | <p>○</p> | <p>家から最寄りのバス停まで行くことができないという問題を受け、南木曾町生活支援体制整備協議体会議にて検討を行ってきた。社会福祉協議会にて、最寄りのバス停から家までの短距離につきボランティア送迎を R2.11～開始した。実績はバス停から自宅まで距離のある小中学生、高齢者サロンの送迎希望はあったが、買い物利用の実績は無かった。※チラシ等で周知している。</p> <p>生活支援コーディネーターより、宅配・移動販売の申し込みややり方が判らない方が多いとの事から、宅配・移動販売等の一覧を記載した、「生活安心ブック」を作成した。R4 年度より高齢者世帯に配布予定。</p> | <p>B</p> | <p>南木曾町生活支援体制整備協議体会議にて、今後の課題検討を行う。必要に応じ、関係者会議を発足することを検討する。</p> <p>生活支援コーディネーターを通じ、各地区サロンやおたすけ隊利用者から現在行っている移動に関する困り事の「工夫・知恵」を聴衆し、普及・啓発に取り組む。</p> |
|-------------------|----------|---|----------|---|

## 2 公共交通の充実

| 具体的な取組名               | 実施状況     | 実施状況の説明  | 事業効果     | 今後の取組み   |
|-----------------------|----------|--|----------|--|
| <p>地域バス・乗合タクシーの運行</p> | <p>○</p> | <p>町が運行主体となることで地域からの声に対応した時刻やダイヤ改正も行い実施した。コロナ禍により国内外の観光客が大幅に減少したため観光路線でもある馬籠線の運行本数減を余儀なく行った。</p> | <p>A</p> | <p>より効率的で住民ニーズに応えられるよう対応すべく、地域公共交通計画を策定した。与川線と北部線の乗合タクシーをデマンドバス化するなど運行方法を再整備する。5年間の計画の中で住民の声を聞きながら、整備を進める。</p> |
| <p>木曾病院線の利用促進</p>     | <p>○</p> | <p>南木曾町の単独での運行を行った。利用者が増えている。徐々に利用が認知されている。</p>  | <p>A</p> | <p>今後も引き続き実施する。公共交通計画の中では、効率と効果を踏まえ、有料化の検討を進めていく。</p>  |

|             |   |   |   |  |
|-------------|---|---|---|--|
| 道路交通基盤の整備   | ○ | <p>町の実施計画に基づく事業の実施により、住民の利便性向上を図ることができた。</p> <p>令和2年度繰り越し事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上の原線舗装修繕工事 L=80m</li> <li>・町道与川線防災工事 L=70m</li> <li>・桃介橋補修工事 主塔補修</li> </ul> <p>令和3年度事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川向下線舗装工事 L=130m</li> <li>・額付環状線舗装工事 L=200m</li> <li>・岩倉橋補修工事</li> </ul> | A | <p>実施計画に基づく事業、及び、重要インフラ・で緊急性が高いものの維持補修などの整備を進めるなど、引き続き住民の利便性の向上を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 南木曾町国土強靱化計画が策定され、今後5年間は「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化計画」の交付金を活用した道路改良・防災対策を実施していく。</li> <li>2. 街並み環境整備事業を活用し、妻籠宿内の舗装修繕を計画していく。</li> </ol> <p>主な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大原線道路改良工事</li> <li>・長者畑線防災工事</li> <li>・坂の下線改良工事</li> <li>・橋梁修繕事業 宮の沢橋、井戸沢橋</li> <li>・富貴畑線舗装改良工事</li> <li>・妻籠町中線舗装工事</li> </ul> <p>等々</p> |
| 南木曾駅窓口業務の運営 | ○ | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、切符販売手数料収入が昨年度の約3割にまで落ち込んだ。(例年は運営費400万円に対し収入が200万円を見込んでいる。→R2は約60万円、R3は約80万円)</p>  | C | <p>新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため売上向上は望めない状況である。JR東海による無人化以降、住民の利便性向上として町が切符販売を実施してきたが、観光客が多く利用している現状もあるため費用対効果を分析し、今後の運営について検討したい。</p>   |

### 3 医療と健康づくりの推進

| 具体的な取組名    | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み                                      |
|------------|------|---|------|---|
| 木曾広域連合との連携 | ○    | <p>各町村で負担金を拠出。休日夜間の一時救急医療を木曾病院の一面を使用し信大医師の派遣と、看護師を配置して実施している。</p>                                 | A    | <p>一時救急医療を担っていることから、継続して実施する。</p>           |
| 地域医療支援事業   | ○    | <p>町内の医療機関を支援するため、施設の整備及び医療機器の購入に要する費用に対する補助金交付支援を行った。</p> <p>令和3年度は2医療機関へ合計2,000千円の支援を行っている。</p> | A    | <p>山間部の過疎地である当町の医療機関を支援するため、継続して実施していく。</p> |

|                     |   |  |   |   |
|---------------------|---|--|---|---|
| 総合型スポーツクラブ<br>支援    | ○ | 支援として補助金の交付、少年スポーツ事業の委託を継続して行っている。また、令和2年度より町職員1名が出向し、活動支援の充実を図っている。   | B | 今後のなぎそチャレンジクラブの支援を行っていくため、長期的な財政計画、事業計画等の作成について協力し検討していきたい。   |
| 疾病予防の促進<br>(健診・検診)  | ○ | 住民の健康維持と疾病の重症化予防するため、特定健診等の健康診査、がん検診等受診率向上に取り組んでいる。特定健診は、在宅看護師による未受診者対策を行い、受診勧奨やデータ提供の働きかけにより受診率向上に繋がった。   | B | 生活習慣病予防の観点から早い時期に生活習慣の問題点に気づき改善していくため、39歳以下の方を対象としたさわやか健診の受診率向上、がんの受診率向上に努め早期発見、早期治療に繋げていくため継続して実施する。 |
| 介護予防の促進<br>(地域支援事業) | ○ | コロナウイルス感染症のため、活動の自粛期間があった。自粛期間中、パワーアップ教室では、自宅でできる体操のチラシを配布。スタッフが参加者宅に電話し、健康状態の把握や継続して体を動かすことの重要性を伝えた。地区サロンへ健康運動指導士・管理栄養士・保健師を派遣するサロン出張講座もコロナウイルス感染症のため実績が伸びなかった。 | B | コロナウイルス感染症予防の影響で外出自粛の動きによるフレイル状態に陥ることを予防するために、運動習慣の定着、規則正しい生活リズム、3食摂取することの大切さを伝えていくために継続して事業実施する。     |

## 基本戦略2

# 子育て世代が戻ってこられる雇用の創出

### 基本目標

町の独自の地域資源を活かした魅力のある新しい雇いを創出し、安心して移住できる労働環境を整備する。

### 数値目標の進捗状況

| 指標名      | 年    | 単位 | 基準値     | R2        | R3         | R4      | 目標<br>(R6)   |
|----------|------|----|---------|-----------|------------|---------|--------------|
| 観光宿泊者数   | 目安値  | 人  | H30     | 130,000   | 130,000    | 130,000 | 130,000      |
|          | 実績値  |    | 139,300 | 119,400   | 96,200     |         |              |
|          | 進捗区分 |    |         | 概ね<br>順調  | 努力を要<br>する |         |              |
| 新規林業従事者数 | 目安値  | 人  | H30     | 1         | 1          | 1       | 5<br>(R2~R6) |
|          | 実績値  |    | 1       | 2         | 0          |         |              |
|          | 進捗区分 |    |         | 順調        | 努力を要<br>する |         |              |
| 誘致した企業数  | 目安値  | 企業 | H30     | —         | —          | —       | 1            |
|          | 実績値  |    | —       | 0         | 0          |         |              |
|          | 進捗区分 |    |         | 実績値<br>なし | 実績値<br>なし  |         |              |

### 総合分析

○都市部の大企業の雇用形態と差別化し、町特有の雇いを創出するため、雇用を生み出す潜在能力がある「観光産業」と「林業」の2つに力をいれた取組みを実施した。併せて優秀な人材の確保や起業促進のための取組みを実施した。

○数値目標や基本目標に係る重要業績評価指標（KPI）は11項目中2項目が「順調」、1項目が「概ね順調」、6項目が「努力を要する」、2項目が「実績値なし」となった。

○ふるさと納税額については、商工会との連携、巣ごもり需要も影響し数値目標を順調に達成している。一方、観光来訪者数は各取組において新型コロナウイルスの影響により著しい減少が続いているため、数値目標を達成できない結果となった。しかし観光協会会員数は順調に増加しており、今後の観光需要回復のための取り組みに一層期待が出来る。

## 重要業績評価指標（KPI）具体的な取組みの進捗状況

### 施策2-1 観光立町の推進

| 指標名 (KPI)    | 年       | 単位  | 基準値    | R2     | R3     | R4     | 目標 (R6) |
|--------------|---------|---|--------|--------|--------|--------|---------|
| 観光客数         | 目安値     | 千人  | H30    | 530    | 535    | 540    | 550     |
|              | 実績値     |   | 526    | 301    | 253    |        |         |
|              | 進捗区分    |   |        | 努力を要する | 努力を要する |        |         |
|              | 進捗状況の分析 | 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度より減少している。   |        |        |        |        |         |
|              | 今後の取組み  | 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため誘客が難しい状況ではあるが、日本人旅行者を取り込むため国のGotoキャンペーン・県事業を有効に活用して回復を図る。        |        |        |        |        |         |
| 外国人観光客数(一石柙) | 目安値     | 人   | H30    | 36,000 | 37,000 | 38,000 | 40,000  |
|              | 実績値     |   | 31,426 | 2,900  | 0      |        |         |
|              | 進捗区分    |   |        | 努力を要する | 努力を要する |        |         |
|              | 進捗状況の分析 | 新型コロナウイルス感染症の影響により激減している状況が続いている。   |        |        |        |        |         |
|              | 今後の取組み  | 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、来日が厳しい状況である。在日外国人の来訪が若干ある状況であるため、国のGotoキャンペーン・県事業を有効に活用して回復を図る。 |        |        |        |        |         |
| ふるさと納税額      | 目安値     | 千円  | H30    | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000  |
|              | 実績値     |   | 13,027 | 29,442 | 25,437 |        |         |
|              | 進捗区分    |   |        | 順調     | 順調     |        |         |
|              | 進捗状況の分析 | 目標達成できた。  |        |        |        |        |         |
|              | 今後の取組み  | 南木曽商工会との連携により宿泊プランや体験などの返礼品の増加をさらに進めていく。委託先を増やすことでふるさと納税額の増加を進めていく。                     |        |        |        |        |         |

|         |         |   |     |    |     |    |    |
|---------|---------|---|-----|----|-----|----|----|
| 観光協会会員数 | 目安値     | 会員  | H30 | 30 | 50  | 60 | 80 |
|         | 実績値     |   | 18  | 94 | 108 |    |    |
|         | 進捗区分    |   |     | 順調 | 順調  |    |    |
|         | 進捗状況の分析 | 協会で町内幅広く入会募集をしたところ、観光関連以外の方々も協会活動に賛同し入会してくれた。 |     |    |     |    |    |
|         | 今後の取組み  | 目標値を超えているが協会では更なる会員増加に努める方針である。               |     |    |     |    |    |

## 1 観光資源の整備・活用の推進

| 具体的な取組名                         | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|---------------------------------|------|--|------|---|
| (一社)南木曾町観光協会への支援<br>(運営・商品開発支援) | ○    | 妻籠宿に拠点を写し本格的に稼働し始めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、その対応に追われる1年であった。そんな中でも、著内・近隣市町村内限定ではあるが旅行業免許を取得した。観光協会のホームページ及びびぶらりなぎそを更新した。 | A    | 観光協会では、観光宣伝等委託している。また、観光庁の補助事業にも積極的に取り組むなどしており、引き続き支援を実施する。 |
| 集客イベントへの支援                      | ○    | ミツバツツジ祭りはコロナ禍のため中止となった。協力隊員として観光協会の依頼により別途対応を行った。  | B    | ミツバツツジ祭りはコロナ禍のため土日のみの開催となった。協力隊員として、数日間の支援を行った。             |
| 観光地整備事業                         | ○    | 町内各地の観光施設の修繕、整備を計画的に実施している。  | A    | 施設整備により安心して訪れることができる環境づくりは、受け入れる観光地の責務であるため今後も継続して実施する。     |
| 地域への観光地整備事業補助金                  | ○    | 町内各地域の観光事業者が主体となり施設整備を行う場合、10分の9以内で70万円を限度に補助しているが、令和3年度の実績はありませんでした。  | B    | 地域が主体となり整備する観光地は、地元の協力のもと維持管理していることも多いので、継続して支援を実施する。       |

|             |   |  |   |  |
|-------------|---|--|---|--|
| 伝統芸能保存      | ○ | 町の伝統芸能(無形民俗文化財)に対し、継続的な活動支援策として備品購入費等の助成をしている。<br>助成実績<br>R3:3件  | B | これまでと同様に、保存団体に対し活動費の一部を補助する。<br>助成予定 R4:3団体  |
| 広域交流道路の整備   | ○ | 長野県と南木曾町が主体となる地域再生計画(道整備交付金)「歴史とひのきの薫る里づくり計画(R3~R7)」を策定。認定された計画により、事業を進めることができた。<br>国・県へ広域道路の整備要望を行い、下記について実施していただいた。また、今年度から国道19号について、中津川市と連携し、国県へ要望活動を実施した。<br>飯田国道事務所<br>・19号舗装工事(十二兼地区)<br>木曾建設事務所<br>・国道256号漆畑拡幅3工区設計、工事発注<br>・(主)中津川南木曾線下り谷工区(滝上橋付近)<br>・(主)中津川田立線新設工事(新大滝川橋、道路築造)<br>・木曾川右岸道路(読書ダムから戸場)設計 | A | 長野県と南木曾町が主体の地域再生計画(道整備交付金)「歴史とひのきの薫る里づくり計画」により、地域住民による町内主要地点間のアクセス時間の短縮、交通安全の向上、森林施業の効率化を通じて、観光客の増、定住を促し、林業振興を目指す。<br>長野県代行事業<br>・町道川向棚野線(高瀬橋架替)<br>R3~R7<br>南木曾町事業<br>・町道大原線改良 R3~R4<br>・町道与川線改良 R4~R6<br>・林道秋葉山線舗装 R4~R6<br>・林道越野線待避所 R7<br><br>飯田国道事務所<br>・19号神戸視距改良事業<br>・19号防災対策工事<br>(賤母洞門上)<br>木曾建設事務所<br>・国道256号漆畑拡幅3工区工事<br>・(主)中津川南木曾線下り谷工区(滝上橋付近)<br>・(主)中津川田立線新設工事(新大滝川橋上部工)<br>・木曾川右岸道路(読書ダムから戸場)設計、用地・補償 |
| 農泊推進協議会への支援 | ○ | コロナ禍であっても地域活性化のために継続体に関わった。協議会としての補助事業は行わなかったが、それぞれの協議会員においては積極的に活動されていた。  | B | 協議会を地域に広く浸透させ、協議会に参加して一緒に地域活性化に取り組みたいと思っていただけの事業については積極的に支援を行う。  |
| 地域おこし協力隊支援  | ○ | 地域おこし協力隊は継続して受け入れており、その都度、事業の目標達成に向けて必要な支援を行った。  | B | 任期終了後に南木曾町に定住してもらうため、引き続き支援を行う。  |

## 2 インバウンドの推進

| 具体的な取組名                         | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み  |
|---------------------------------|------|---|------|---|
| (一社)南木曾町観光協会への支援(運営・商品開発支援)(再掲) | ○    | 妻籠宿に拠点を写し本格的に稼働し始めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、その対応に追われる1年であった。そんな中でも、著内・近隣市町村内限定ではあるが旅行業免許を取得した。観光協会のホームページ及びぶらりなぎそを更新した。 | A    | 観光協会では、観光宣伝等委託している。また、観光庁の補助事業にも積極的に取り組むなどしており、引き続き支援を実施する。   |
| 多言語化等事業                         | ○    | 南木曾町観光協会のホームページを更新したため、令和3年度については、英語でもホームページを閲覧できるよう更新した。   | B    | 引き続き観光協会等と協議し、多言語に対応できるよう事業を検討していく。   |
| 駅観光案内所の運営                       | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により、案内対応した人数は前年の約20%、訪れた外国人は約2%と激減した。  | C    | 継続して業務を実施するが、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、状況的に一時的に縮小等の対応の検討を図る必要となってくる。  |
| 外国人向けツアーガイドの育成                  | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により事業の取り組みが殆どできなかった。   | C    | 南木曾町では妻籠宿での対応がメインとなるが歴史や保存事業の内容を踏まえたガイドが必要である。今年度、観光庁の事業で民間企業が行う事業に町も同意した。、事業計画の中には、ツアーガイドの育成も入っているため期待される。 |
| 空家等を活用した観光交流施設・宿泊施設等の整備         | ○    | 令和元年度に整備した観光交流施設を無料開放し休憩所として活用、滞在時間の増加に貢献できた。   | B    | インバウンドが戻ってきた時の施設の活用方法について関係部署と協議しておく。   |
| キャッシュレス決済の導入支援                  | ○    | 令和3年度は、導入実績がなかったが、今まで商工会で啓発を実施した結果、町内のキャッシュレス決済の導入状況は、令和元年度時点で42社となっている。利用できる環境づくりは進んでいる。                           | B    | コロナ過により非接触式のキャッシュレスの普及が進むと思われるので、利用促進のため商工会と連携して啓発に取り組む。  |



### 3 地域ブランド力の向上

| 具体的な取組名                 | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み   |
|-------------------------|------|--|------|--|
| 日本遺産・日本で最も美しい村連合に関する PR | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により、PR イベントが実施できなかった。   | B    | 令和3年度は加入条件の再審査が実施される。  |
| 地域ブランド促進事業              | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントが中止となったが、長久手市への木工玩具の提供は引き続き実施できた。                     | B    | コロナ過ではあるが、実施可能なPR活動を実施していく。長久手市への木工玩具の提供を引き続き実施できるよう、事業者とともに取り組む。                    |
| 宣伝誘客活動                  | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により、積極的な活動が出来なかった。観光協において可能な範囲で観光案内、メディア、旅行者へのPR、各種取材の対応等を実施した。 | B    | コロナ過ではあるが、観光客の増加を図るために情報の発信は不可欠である。効率を高め有効な誘客活動にするために、観光協会ホームページ・パンフレットのリニューアルを検討する。 |
| ふるさと納税の拡充と企業版ふるさと納税の導入  | ○    | 商工会への委託契約により返礼品の登録や宿泊券等の体験型返礼品等の充実を図ることができた。                                   | A    | 現在1社の委託先を2社として、ふるさと納税額増加に努める。  |
| スローフードの活用推進             | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小して実施された。  | B    | 引き続き活用推進を図る。   |

|         |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|
| 広域連携の推進 | ○ | 新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等中止となり、会議も Web が中心であった。 | C | 木曽観光連盟、伊那路木曽路広域観光連携会議、長久手市、上下流交流などへの参加・交流を行い、広域連携を図る。 |
|---------|---|---|---|---|

#### 4 妻籠宿の保存と活用

| 具体的な取組名             | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み   |
|---------------------|------|--|------|--|
| 妻籠宿保存事業             | ○    | 建物の経年劣化により、修理が必要な物件が増加している。妻籠宿の世界的価値を維持するために継続的な取り組みが必要。重伝建保存修理実績 R3：1 棟 重要文化財の保存修理 R3：1 件 小規模修理実績 R3：8 棟                          | B    | 令和 3 年度と同様に、妻籠宿保存地区内建造物の保存・維持工事を行っていく。<br>重伝建保存修理予定 R4：1 棟<br>本陣修景事業予定 R4：1 件<br>小規模修理 R4：棟数未定   |
| 歴史の道修理・修景           | ○    | 令和 2 年度から中山道保存活用計画策定を進めている。緊急度の高いものについては修繕・整備を行っている。保存活用計画策定の中で、大きな修繕・整備については計画を盛り込んでいく。<br>令和 3 年度は、保存活用計画策定委員会の開催により整備計画の検討を行った。 | B    | 外国人、特に欧米人から評価が高い歴史の道の景観を維持しながら整備することが重要であり、歩道の木橋などは劣化損傷が早く、緊急度により町内各所で修繕、整備を行っている。中山道保存活用計画策定の中で整備計画を盛り込んでいく。<br>R3：保存活用計画策定委員会の開催により整備計画の検討 |
| 妻籠宿の世界遺産登録に向けた調査・研究 | ○    | 指定されるために必要な課題が数多くあるため、認定にはかなり時間を要すると思われるが、研究は継続していく必要がある。現在、世界遺産暫定一覧に妻籠宿・馬籠宿として記載されているが、文化庁が現在の候補案件指定を優先しているため進展していない。             | C    | 現在、世界遺産暫定一覧に妻籠宿・馬籠宿として記載されているが、文化庁が現在の候補案件指定を優先しているため進展していない。  |
| 中山道などの道路整備          | ○    | 令和 2 年度から中山道保存活用計画策定を進めている。緊急度の高いものについては修繕・整備を行っている。保存活用計画策定の中で、大きな修繕・整備については計画を盛り込んでいく。<br>令和 3 年度は、保存活用計画策定委員会の開催により整備計画の検討を行った。 | B    | 外国人、特に欧米人から評価が高い歴史の道の景観を維持しながら整備することが重要であり、歩道の木橋などは劣化損傷が早く、緊急度により町内各所で修繕、整備を行っている。中山道保存活用計画策定の中で整備計画を盛り込んでいく。<br>R3：保存活用計画策定委員会の開催により整備計画の検討 |

## 5 リニアを活かしたまちづくり

| 具体的な取組名                   | 実施状況 | 実施状況の説明                | 事業効果 | 今後の取組み       |
|---------------------------|------|------------------------|------|--------------|
| リニア中央新幹線を活かした地域づくり委員会への支援 | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により未実施。 | E    | 引き続き支援を実施する。 |

## 施策2-2 林業振興の促進

| 指標名 (KPI)       | 年       | 単位   | 基準値    | R2     | R3     | R4     | 目標 (R6) |
|-----------------|---------|--|--------|--------|--------|--------|---------|
| 町有林・民有林の間伐実施面積  | 目安値     | ha   | H30    | 50     | 50     | 50     | 50      |
|                 | 実績値     |  | 28.61  | 37     | 42     |        |         |
|                 | 進捗区分    |  |        | 努力を要する | 概ね順調   |        |         |
|                 | 進捗状況の分析 | 今年度も町有林内において、高性能林業機械を使用した搬出間伐を実施した。民有林内における間伐事業にも高性能林業機械が使用され実施した。 |        |        |        |        |         |
|                 | 今後の取組み  | 高性能林業機械を使用した搬出間伐を実施し、今後の民有林内における事業の拡大を目指していくこととなる。                 |        |        |        |        |         |
| 国有林レクリエーション利用者数 | 目安値     | 人  | H30    | 20,000 | 20,000 | 20,000 | 20,000  |
|                 | 実績値     |  | 20,800 | 16,700 | 8,500  |        |         |
|                 | 進捗区分    |  |        | 概ね順調   | 努力を要する |        |         |
|                 | 進捗状況の分析 | 新型コロナウイルス感染症の影響により国有林の利用者数が激減した。                                   |        |        |        |        |         |
|                 | 今後の取組み  | 田立の滝遊歩道整備・巡視活動。南木曾岳登山道ボランティア整備を実施し、安全に楽しむことができる環境づくりに取り組む。         |        |        |        |        |         |

## 1 町有林・民有林の利活用の促進

| 具体的な取組名                            | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------------------------|------|---|------|---|
| 町有林整備・活用の推進                        | ○    | 搬出間伐による町有林整備を行った。昨年度搬出された間伐材を製材し保管していたものを公共建築物へ資材として使用した。   | A    | 町経済を牽引する木材産業の強みを最大限発揮する、公共建築物への町産材の利用をしていく。   |
| 民有林の新たな経営管理システムの構築<br>(森林環境譲与税の活用) | ○    | 木曾広域連合を連携し森林経営管理システムの推進を行った。本年度は与川川合団地の森林整備と妻籠城山団地の意向調査を行った。  | A    | 引き続き防災減災を柱に地区を確認しながら事業を進めていく。   |
| まきストーブ・ペレットストーブへの補助とペレット工場の検討      | ○    | 山林資源を活用し林業の振興を図るため、薪及びペレットストーブ設置に対する補助を1件行った。   | A    | 引き続き薪及びペレットストーブ設置に対する補助を行う。   |
| 地元産材利用促進モデル事業<br>(妻籠町並み交流センター建設)   | ○    | 昨年度搬出された町有林間伐材を製材し保管していたものを妻籠町並み交流センター建設用資材として使用した。   | A    | 今後も関係機関と調整をとり、公共建築物に町有林産資材活用を検討していく。  |
| 林道網の整備                             | ○    | 民有林整備を推進するためには搬出間伐の推進をする必要がある。特に作業効率を上げるために林道網の整備が求められている。作業道開設・修繕補助制度を創設した。                          | B    | 今後も森林作業道開設・修繕補助金を実施していく。  |
| 森林組合への支援                           | ○    | 民有林整備を推進するためには民有林の地権者8割が組合員となっている森林組合の安定した経営と事業量の増加は今後も必須であり、嵩上補助だけでなく組織・現場の両方への期間を絞り、機械設備等の投資が必要である。 | A    | 民有林整備を推進するためには民有林の地権者8割が組合員となっている森林組合の安定した経営と事業量の増加は今後も必須であり、嵩上補助だけでなく組織・現場の両方への支援が必要である。 |

## 2 国有林の利活用の推進

| 具体的な取組名            | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み   |
|--------------------|------|---|------|--|
| レクリエーションの場としての整備活用 | ○    | 必要な維持修繕を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により観光客数は減少しているが、密にならない国有林は微減に留まった。  | B    | 田立の滝遊歩道整備・巡視活動。南木曾岳登山道ボランティア整備を実施し、安全に楽しむことができる環境づくりに取り組む。 |
| 学校教育の場としての活用       | ○    | 国有林、分収林の保育事業等を森林管理署、地元の林業関係者の協力を受けながら、山林、森林整備や自然環境の大切さを学んでいる。   | A    | 森林管理署や林業関係者の協力を得ながら、コロナ感染症対策を講じながら取組んでいく。                  |
| 農泊推進協議会への支援(再掲)    | ○    | 協議会の構成団体の事業において、国有林内での体験が一つの事業となっており、現在のところ所定の手続きを行い利活用が図られている。 | B    | 許認可関係において行政という立場で必要な支援を行う。                                 |

## 3 林業関連地場産業の振興

| 具体的な取組名                    | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み  |
|----------------------------|------|---|------|---|
| 伝統工芸品のPR                   | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により、PRする場が無かったが、美しい村連合の関係で伊那市のイベントに出店しPRが出来た。                            | B    | 引き続き日本で最も美しい村連合、日本遺産のネームバリューを活用し、今後も物産展などにて伝統工芸品のPRを図る。 |
| 工芸街道祭支援                    | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響により、無期延期となったため支援は実施しなかった。  | E    | 開催の際には引き続き支援を実施する。                                      |
| 伝統工芸体験プログラム                | ○    | 和紙、ろくろ細工、ひの木笠の製作体験を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者は減少した。観光協会のモデルツアーにおいて、メニューにろくろ体験を盛り込んだ。 | B    | 体験メニューの利用者を増やため、観光協会のツアー造成へのメニュー化を図る。                   |
| ふるさと納税の拡充と企業版ふるさと納税の導入(再掲) | ○    | 商工会への委託契約により返礼品の登録や充実を図ることができた。その中でも地元製材業の製品が返礼品として登録いただけことは地元の林業のPRともなっている。            | A    | 引き続き、返礼品についての内容充実を進めていく。                                |

|                               |          |  |   |
|-------------------------------|----------|--|---|
| <p>工芸品産業振興事業補助金</p>           | <p>○</p> | <p>伝統的工芸品産業（南木曽ろくろ組合、蘭桧笠組合、田立和紙組合）で、後継者育成のための講習会の開催や、活用のための研究や取り組みなどに対する補助を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部取り組みが実施できない団体もあった。</p> | <p>B</p> <p>引き続き支援を実施する。</p>  |
| <p>ウッディクリエイイト南木曽（WCN）への支援</p> | <p>○</p> | <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、町外との交流事業は実施できなかったが、小学生の木工製作活動には関わられた。</p>  | <p>B</p> <p>引き続き支援を実施する。</p>  |
| <p>地域おこし協力隊支援（再掲）</p>         | <p>○</p> | <p>伝統工芸を継承とした内容の募集要項を作成し令和3年度も募集を行い、数名の方が木工、ろくろについて応募があった。引き続き地域と連携しながら支援を行う。</p>  | <p>A</p> <p>令和4年度は伝統工芸、木工芸の担い手として2名の方より応募があった。組合や地域との連携により引き続き支援を行っていく。</p> |

## 施策 2 - 3 地域リーダーの育成

| 指標名 (KPI)   | 年       | 単位                                  | 基準値 | R2     | R3     | R4 | 目標 (R6)       |
|-------------|---------|-------------------------------------|-----|--------|--------|----|---------------|
| 地域おこし協力隊定着数 | 目安値     | 人                                   | H30 | 2      | 2      | 2  | 2<br>(R2~R6)  |
|             | 実績値     |                                     | 1   | 2      | 1      |    |               |
|             | 進捗区分    |                                     |     | 順調     | 努力を要する |    |               |
|             | 進捗状況の分析 | 2名退任されたが、1名は定住、もう1名は定着に至らなかった。      |     |        |        |    |               |
|             | 今後の取組み  | 引き続き3名の地域おこし協力隊を任用し、定住に向けて活動を進めていく。 |     |        |        |    |               |
| 起業支援件数      | 目安値     | 件                                   | H30 | 5      | 5      | 5  | 25<br>(R2~R6) |
|             | 実績値     |                                     | 1   | 1      | 0      |    |               |
|             | 進捗区分    |                                     |     | 努力を要する | 実績値なし  |    |               |
|             | 進捗状況の分析 | 個別の相談もなく、実績無しとなった。                  |     |        |        |    |               |
|             | 今後の取組み  | 地域おこし協力隊員の将来的な起業に向けての支援は継続的に行っていく。  |     |        |        |    |               |

### 1 地域に必要な人材の育成・確保

| 具体的な取組名         | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み   |
|-----------------|------|--|------|--|
| 移住定住情報の発信       | ○    | 空き家バンクの更新や町営住宅入居者募集、移住相談会のお知らせなど、SNSや町のホームページなどで都度発信した。  | B    | 今年度もコロナの感染状況によりオンライン相談や感染対策を取り入れながら実施する。           |
| UIJ ターン就業移住支援事業 | ○    | 該当者なし。   | C    | 該当者の要件を令和3年度に拡充した。情報を再周知し引き続き情報提供に努めていく。           |
| 人材の育成と関係人口の拡大   | ○    | 大学との連携事業ではコロナの抗原キット等で事前検査を行う等して参加者に協力いただき、日帰りではあるが実施できた。 | B    | ウィズコロナの現在、準備や気配りが今まで以上に必要な状況であるが、地域の発展のために取り組んでいく。 |



|                |   |   |   |                                  |
|----------------|---|---|---|----------------------------------|
| 地域おこし協力隊支援(再掲) | ○ | 地域の方が集まれるような活性化イベント等予定されていたが、コロナ禍により実行できなかった。 | E | 今年度もコロナの感染状況により対策を検討しながら取り組んでいく。 |
|----------------|---|---|---|----------------------------------|

## 2 企業誘致・起業支援

| 具体的な取組名        | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み  |
|----------------|------|---|------|---|
| 移住定住・起業支援      | ○    | サテライトオフィスやテレワークについて、総務省の補助制度など研究し、オンライン説明会に参加した。                | B    | 候補地と国の交付金申請に間に合うよう準備を進めていく。                             |
| 企業誘致活動         | ○    | サテライトオフィスやテレワークについて、総務省の補助制度など研究し、オンライン説明会に参加した。                | B    | 大規模な企業誘致ではなく、個人の企業・起業を支援することについては、働く場の拡充という視点で支援を進めていく。 |
| 経営指導（再掲）       | ○    | 新型コロナウイルス感染症の影響による経営状況の悪化のため、指導件数が大幅に増加した。                      | A    | 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているため、商工会と連携して事業者支援に取り組む。             |
| 地域おこし協力隊支援（再掲） | ○    | 協力隊を退任された方が、起業に向けての準備できるように金銭面の支援として補助制度の説明を行い、活用のための助言や支援を行った。 | B    | 引き続き補助制度について各隊員へ説明し、町への定住と起業に向けての支援を行っていく。              |

### 基本戦略3

## 子育て世代のUIJターンの拡大

### 基本目標

移住者だけでなく定住者も快適で安心して暮らせることのできる環境を整備することにより人口の社会減を縮小させる。

### 数値目標の進捗状況

| 指標名          | 年    | 単位 | 基準値        | R2              | R3              | R4              | 目標(R6)           |
|--------------|------|----|------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|
| 20代～30代の転入者数 | 目安値  | 人  | H27～<br>R1 | 252以上<br>(R2累計) | 284以上<br>(R3累計) | 316以上<br>(R4累計) | 380以上<br>(R2～R6) |
|              | 実績値  |    | 235        | 301<br>(R2累計)   | 355<br>(R3累計)   |                 |                  |
|              | 進捗区分 |    |            | 順調              | 順調              |                 |                  |
| 20代～30代の転出者数 | 目安値  | 人  | H27～<br>R1 | 296以下<br>(R2累計) | 307以下<br>(R3累計) | 318以下<br>(R4累計) | 340以下<br>(R2～R6) |
|              | 実績値  |    | 258        | 342<br>(R2累計)   | 395<br>(R3累計)   |                 |                  |
|              | 進捗区分 |    |            | 努力を要する          | 努力を要する          |                 |                  |

### 総合分析

○人口の社会減を縮小させ、社会増に転換するため、移住定住促進や住宅環境の整備などの施策に取り組んだ。

○基本目標である20代～30代の転入者及び転出者は、転入者については移住定住情報の発信数の増加やユーアイ住宅の建設完了もあり「順調」、転出者については「努力を要する」となり、引き続き転出者を減少させる取組が重要である。

○基本目標に係る重要業績評価指標(KPI)は9項目中4項目が「順調」、4項目が「努力を要する」、1項目が「実績値なし」となった。

○具体的な取り組みについての効果の評価は、ほぼA又はBであった。効果的ではない取り組みについては、今後の実施方法を見直し展開する。

○地元企業への新規就労者数が大幅減となっており、魅力的な広報活動を検討する必要がある。

## 重要業績評価指標（KPI）具体的な取組みの進捗状況

### 施策3-1 Uターンしたくなるまちづくり

| 指標名 (KPI)          | 年       | 単位  | 基準値 | R2     | R3     | R4 | 目標 (R6) |
|--------------------|---------|---|-----|--------|--------|----|---------|
| 小中学生の地場産業体験学習回数    | 目安値     | 回   | H30 | 33     | 33     | 33 | 34      |
|                    | 実績値     |   | 33  | 20     | 21     |    |         |
|                    | 進捗区分    |   |     | 努力を要する | 努力を要する |    |         |
|                    | 進捗状況の分析 | 総合的な学習の時間を中心に取り組みを行っている。  |     |        |        |    |         |
|                    | 今後の取組み  | 計画どおりに実施できるよう努める。新型コロナウイルス感染症対策による実施方法の変更、授業・学びの保障のため、中止となった場合の代替活動等への支援を行っていく。 |     |        |        |    |         |
| 移住定住情報の発信数         | 目安値     | 回   | H30 | 6      | 6      | 6  | 6       |
|                    | 実績値     |   | —   | 14     | 23     |    |         |
|                    | 進捗区分    |   |     | 順調     | 順調     |    |         |
|                    | 進捗状況の分析 | 目標達成できた。  |     |        |        |    |         |
|                    | 今後の取組み  | SNS と町ホームページ等で移住希望者が探しやすいページ構成に見直し、情報のアップデートに常に心掛ける。各担当とも連携する。                  |     |        |        |    |         |
| UIターン就業・移住支援事業利用者数 | 目安値     | 人   | H30 | 1      | 1      | 1  | 5       |
|                    | 実績値     |   | —   | 0      | 0      |    |         |
|                    | 進捗区分    |   |     | 実績値なし  | 実績値なし  |    |         |
|                    | 進捗状況の分析 | 実績なし。   |     |        |        |    |         |
|                    | 今後の取組み  | 広報誌や町ホームページで周知は行ったが、再周知を行っていく。  |     |        |        |    |         |

## 1 地域キャリア教育の推進

| 具体的な取組名          | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み   |
|------------------|------|---|------|--|
| 学生の職業体験支援        | ○    | <p>■元気なまちづくり<br/>広域連携事業で取組大学生の職業体験については、中止となったため事業実施していない。</p> <p>■総務学校<br/>生徒の希望により、中学校及び高校から直接事業所に依頼して実施している。町内事業者の受入れ等の情報は商工会等の協力をいただいている。</p> | A    | <p>■元気なまちづくり<br/>今後もコロナの感染状況を踏まえながら実施について検討していく。</p> <p>■総務学校<br/>商工会、地元企業など関係者の協力を得て、引き続き実施していく。</p>                          |
| 学校教育への地元食材利用（再掲） | ○    | <p>■農林<br/>学校給食への食材提供運搬費の補助を実施。</p> <p>■総務学校<br/>農林係、地産地消推進会議の協力を得ながら、地元の四季の野菜を食べてもらうことができた。主食である米も地元南部産コシヒカリを使用し、町費で100%補助を行った。</p>              | A    | <p>■農林<br/>引続き、運搬補助を実施する。</p> <p>■総務学校<br/>地元の旬の野菜、食材等を給食に取り入れることで食の安全やおいしい給食で残菜減、食育に役立てたい。米の購入費を町費全額負担にすることで、保護者負担の軽減を図る。</p> |
| ウッドィスタート事業       | ○    | 木製の土産祝い品を交付する事業として町・長久手市で実施し定着した。   | A    | 引き続き支援を実施する。   |
| 林業体験学習           | ○    | 中学生 31 人が学校林の整備等授業の一環として実施。継続事業として学校内でも内容の理解がされてきている。   | A    | 小学生に植樹祭等のイベント、中学生には学校林の整備等授業の一環として実施予定。継続事業として学校内でも内容の理解がされてきている。  |

## 2 移住定住情報の発信

| 具体的な取組名       | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み                                      |
|---------------|------|--|------|---|
| 移住定住情報の発信【再掲】 | ○    | 町のホームページより、空き家バンクの更新や町営住宅入居者募集、移住相談会のお知らせなど都度発信した。 | B    | 移住定住に関する冊子を作成し、町の HP などにも掲載した。SNS 等でも周知を行う。 |

|                  |   |  |   |  |
|------------------|---|--|---|--|
| ホームページ・移住相談窓口の充実 | ○ | 町のホームページより、空き家バンクの更新や町営住宅入居者募集、移住相談会のお知らせなど都度発信した。 | B | 移住定住に関する冊子を作成し、町のHPなどにも掲載した。SNS等でも周知を行う。相談方法については電話、メールの他、オンラインでの相談窓口を開設し、移住希望者の支援を行う。 |
|------------------|---|--|---|--|

### 3 Uターン者向けの経済支援

| 具体的な取組名              | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|----------------------|------|--|------|---|
| UIJ ターン就業・移住支援事業（再掲） | ○    | UIJ ターン就業・移住支援について該当する方がいなかった。                                     | C    | 該当者の要件を令和3年度に拡充した。情報を再周知し引き続き情報提供に努めていく。                                    |
| 奨学金等の検討              | ○    | 他町村や木曽広域連合の制度内容について状況の把握を行った。                                      | E    | 他町村等の奨学金制度を研究し、県の新たな制度も考慮する中で制度設計に取り組む。                                     |
| 住宅リフォーム補助金           | ○    | 居住環境の向上を図るため、申請者に対し補助金を交付し、定住人口の維持を図った。令和3年度は9件、1,493千円の補助金交付を行った。 | B    | 住宅関連産業を中心とした町内経済の活性化及び、高齢者の居住環境の向上を図るため、子育て世帯などへの上乗せ補助を併せて活用について住民へ周知をしていく。 |

### 施策3-2 強みを活かしたUIJターンの促進

| 指標名 (KPI) | 年       | 単位   | 基準値 | R2     | R3     | R4 | 目標 (R6) |
|-----------|---------|--|-----|--------|--------|----|---------|
| 移住相談件数    | 目安値     | 回  | H30 | 10     | 10     | 10 | 10      |
|           | 実績値     |  | 10  | 15     | 10     |    |         |
|           | 進捗区分    |  |     | 順調     | 順調     |    |         |
|           | 進捗状況の分析 | 目標達成できた。   |     |        |        |    |         |
|           | 今後の取組み  | 主にメール等から問い合わせが多く感じた。町のホームページの構成を移住希望者にとって探しやすい内容となるよう心掛ける。 |     |        |        |    |         |
| 空家バンク登録件数 | 目安値     | 件  | H30 | 10     | 10     | 10 | 10      |
|           | 実績値     |  | 7   | 6      | 6      |    |         |
|           | 進捗区分    |  |     | 努力を要する | 努力を要する |    |         |
|           | 進捗状況の分析 | 目標を下回る結果となった。  |     |        |        |    |         |
|           | 今後の取組み  | 町内の空き家実態調査を実施予定。所有者への意向調査を行い空き家バンク登録件数の増加を見込む。             |     |        |        |    |         |

#### 1 移住相談会への参加

| 具体的な取組名   | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|-----------|------|--|------|---|
| 移住相談会への参加 | ○    | 県や国が主催する移住相談会に参加（オンライン含む）した。事前予約制ということもあり参加者にとって少々敷居が高いイベントとなったが、継続的に参加していき、認知度を広めていく。 | B    | 引き続き相談会に参加していく。オンラインか対面開催かが、その時の感染状況により変動するためどちらでも対応できるようにする。 |

## 2 移住者受入体制の強化

| 具体的な取組名                | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------------|------|--|------|---|
| 移住体験住宅整備               | ○    | 空き家バンク登録の申し出があった所有者との交渉により、移住体験住宅整備に向けて対象物件を定め進めたが、耐震強度の問題で整備できなかった。                           | C    | 令和4年度は、昨年度の反省を活かして南木曽町町内の空き家所有者への意向調査を行い利用可能な空き家資源を掘り起し、定住用賃貸住宅として整備する準備を進める年となる。 |
| 移住体験ツアー                | ○    | 広域連携事業として行う移住体験ツアーについては、移住希望者の要望に合わせたオーダーメイドツアーとして実施した。  | B    | 移住ツアー希望者のニーズにマッチングするよう町の支援情報の整備や町移住ホームページの整理を行う。                                  |
| 空き家利活用補助金の拡充           | ○    | 空き家利活用推進補助金について、空き家バンク利用者と制度周知により順調に利用が進んだ。大学連携事業で制作した冊子などにも利活用補助金や空き家紹介等を行い、若者にも関心が行くように工夫した。 | B    | 空き家の利活用により、所有者も負担が少なくなることを更に多くの方に周知していく。  |
| 空き家バンク登録の推進            | ○    | 空き家バンクの物件登録について所有者の目に留まるような施策を行った。固定資産通知に空き家管理に関するチラシの封入などで問い合わせ件数も増えてきている。                    | B    | 町内の空き家実態調査を実施予定。所有者への意向調査を行い空き家バンク登録件数の増加を見込む。                                    |
| 若者まちづくり会議<br>(再掲)      | ○    | 二ツちな南木曽の情報発信を行い、南木曽町に定住している若者が楽しんでいる様子をSNSで発信した。   | B    | 引き続き協議や個別ヒアリングを行い、地域のレアな情報を発信していく。  |
| 人材の育成と関係人口の<br>拡大 (再掲) | ○    | 大学生等と取り組む事業で地域の事業者や住民と交流意見交換する場を持てたが、日帰りという制約の中継続的な交流とまではいかなかった。                               | B    | 地域住民や若者、連携事業の大学生等との交流について、コロナの状況により、感染対策を行ったうえで取り組んでいく。                           |

### 施策3-3 地元企業への就労の促進

| 指標名 (KPI)    | 年       | 単位   | 基準値 | R2     | R3     | R4 | 目標 (R6)       |
|--------------|---------|--|-----|--------|--------|----|---------------|
| 地元企業への新規就労者数 | 目安値     | 人  | H30 | 20     | 20     | 20 | 90<br>(R2~R6) |
|              | 実績値     |  | 18  | 7      | 4      |    |               |
|              | 進捗区分    |  |     | 努力を要する | 努力を要する |    |               |
|              | 進捗状況の分析 | 目標値に対して大幅に達していない。                            |     |        |        |    |               |
|              | 今後の取組み  | 地元企業への就労していただくよう、求人情報などハローワークと連携し、広報活動に取り組む。 |     |        |        |    |               |

#### 1 地元への就労支援

| 具体的な取組名              | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み   |
|----------------------|------|---|------|--|
| UIJ ターン就業・移住支援事業（再掲） | ○    | 町内の企業で当該支援のための長野県マッチングサイト登録している会社が5件。商工会等とも連携を進めていく。  | B    | 地元企業に人材が就業することで移住支援、地域活性化に繋がるため、継続的に商工会や商工観光担当と連携し進める。   |
| 学生の職業体験支援（再掲）        | ○    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■元気なまちづくり 広域連携のインターンシップが中止となったため、事業として行われなかった。</li> <li>■総務学校 生徒の希望により、中学校及び高校から直接事業所に依頼して実施している。町内事業者の受入れ等の情報は商工会等の協力をいただいている。</li> </ul> | A    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■元気なまちづくり インターンシップ事業が実施された場合の支援を継続的に行う。</li> <li>■総務学校 商工会、地元企業など関係者の協力を得て、引き続き実施していく。</li> </ul> |
| 地元への就労支援             | ○    | ハローワーク求人情報の掲示を行うなど、周知を実施した。また、広域メール情報も活用し、南木曾町で働きたい希望者にメール配信も実施した。  | B    | 引き続き同様に実施する。   |
| 新規就農就林者への支援          | ○    | 新規に就農を希望する者への相談受付体制として、町、県、JA 等で協力する体制としている。新規就農希望1件、支援会議を開催。   | B    | 新たな新規就農希望者への相談対応。就農1～2年目の者に対するアフターケア、営農計画の見直し支援、技術的支援を関係者で行う。  |



### 施策3-4 ベッドタウンとして選ばれるまちづくり

| 指標名 (KPI)      | 年       | 単位  | 基準値 | R2     | R3 | R4 | 目標 (R6)      |
|----------------|---------|---|-----|--------|----|----|--------------|
| ユーアイ住宅による移住世帯数 | 目安値     | 世帯  | H30 | 4      | —  | —  | 4<br>(R2~R6) |
|                | 実績値     |   | 4   | 2      | 7  |    |              |
|                | 進捗区分    |   |     | 努力を要する | 順調 |    |              |
|                | 進捗状況の分析 | ユーアイ住宅住吉団地の建設完了により、移住世帯が増加した。単身用住宅の建設により、町内企業に勤務する若者のニーズにあった住宅を供給することにより移住者の増加につながった。 |     |        |    |    |              |
|                | 今後の取組み  | 引き続き空き家の募集を行っていきたい。単身用住宅の建設も含め、南木曽町への移住定住者のニーズにこたえる住宅の建設により、移住者の増加を図る。                |     |        |    |    |              |

#### 1 住宅地としての競争力強化

| 具体的な取組名          | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------|------|---|------|---|
| ユーアイ住宅の建設        | ○    | 町内企業就労者向けの単身用住宅が令和3年9月に完成し、10月から募集を開始した。令和4年3月末で全室入居となった。             | A    | 単身用住宅の建設も含め、南木曽町への移住定住者のニーズにこたえる住宅の建設により、移住者の増加を図る。                                   |
| 空家利活用補助金の拡充 (再掲) | ○    | 移住を検討している方に向けての冊子などを作成し、町内外の方々に、空き家利活用について目に留まるようにSNSやホームページにて周知を行った。 | B    | UIターン者はもちろん、町内のユーアイ住宅等に入居されている子育て世帯にも制度活用を周知し、(持ち家として空き家を購入し居住する) 空き家の利用促進と定住率の向上を促す。 |
| 住宅リフォーム補助金 (再掲)  | ○    | 申請者に対し補助金を交付した。令和3年度は9件、1,493千円の補助金交付を行った。                            | B    | 住宅関連産業を中心とした町内経済の活性化及び、高齢者の居住環境の向上を図るため、子育て世帯などへの上乗せ補助を併せて活用について住民へ周知をしていく。           |
| 宅地造成             | ○    | 未売地1区画の販売条件について571千円減額する見直しを行い、広報なぎそ・町ホームページで募集を実施した。                 | C    | 未売地の販売について、引き続き広報・インターネット等で募集していく。  |

## 基本戦略4

# 子育て世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくり

## 基本目標

子育て世代の結婚・出産・子育てに関する希望を叶え、子どもたちが夢を叶えられるまちとなるよう教育環境を発展させる。

## 数値目標の進捗状況

| 指標名   | 年    | 単位 | 基準値 | R2     | R3     | R4 | 目標(R6) |
|-------|------|----|-----|--------|--------|----|--------|
| 婚姻届出数 | 目安値  | 件  | H30 | 15     | 15     | 15 | 15     |
|       | 実績値  |    | 11  | 9      | 10     |    |        |
|       | 進捗区分 |    |     | 努力を要する | 努力を要する |    |        |
| 出生数   | 目安値  | 人  | H30 | 20     | 20     | 20 | 20     |
|       | 実績値  |    | 20  | 14     | 12     |    |        |
|       | 進捗区分 |    |     | 努力を要する | 努力を要する |    |        |

## 総合分析

○人口の自然減に歯止めをかけるため結婚、出産、子育てへの支援や、町の地方創生に非常に重要な役割を持つ蘇南高等学校に対する支援を実施した。

○基本目標に係る重要業績評価指標（KPI）は9項目中3項目が「順調」、2項目が「概ね順調」、4項目が「努力を要する」となった。

○基本目標である婚姻届出数は前年度より増加したが目標達成とはならなかった。出生数については新型コロナウイルスの影響により前年度に比べ減少している。そのため「努力を要する」結果となった。

○具体的な取り組みについての効果はA評価が最も多く、その他取り組みについても概ね良好である。出産、子育て支援、教育の充実に関する取り組みについて、より効果が上がるよう継続的に取り組むことが重要である。また、なぎそこども園移行による「職員と園児の集約」、田立分園の「おやこのひろば」、蘭分園の「未満児受け入れ」等、子育て支援に関する変更事業が多いため、保護者や職員と連携して重点的に取り組む必要がある。

## 重要業績評価指標（KPI）具体的な取組みの進捗状況

### 施策4-1 結婚希望の早期実現の促進

| 指標名 (KPI)    | 年       | 単位  | 基準値 | R2  | R3     | R4 | 目標 (R6) |
|--------------|---------|---|-----|-----|--------|----|---------|
| 結婚支援イベント開催数  | 目安値     | 回   | H30 | 2   | 2      | 2  | 2       |
|              | 実績値     |   | 1   | 6   | 1      |    |         |
|              | 進捗区分    |   |     | 順調  | 努力を要する |    |         |
|              | 進捗状況の分析 | 令和2年度の形式から変更し、直営での結婚支援イベントを開催した。参加者にとってはハードルが低く気軽に参加出来たのでは。コロナの影響もあり参加者集めに苦慮した。 |     |     |        |    |         |
|              | 今後の取組み  | R3の形式を引き続き行う。イベント運営会社への委託の形で数回行う。   |     |     |        |    |         |
| 結婚支援イベント参加者数 | 目安値     | 人   | H30 | 10  | 10     | 15 | 15      |
|              | 実績値     |   | 7   | 140 | 4      |    |         |
|              | 進捗区分    |   |     | 順調  | 努力を要する |    |         |
|              | 進捗状況の分析 | 目標を下回る結果となった。コロナの影響もあり参加者の不足や実施予定が緊急事態宣言下やまん延防止措置の期間中等により開催自体ができなかった。           |     |     |        |    |         |
|              | 今後の取組み  | R3の形式を引き続き行う。イベント運営会社への委託の形で数回行い、参加者の増加を目指す。                                    |     |     |        |    |         |

### 1 出会いの場の創出と結婚サポート体制の充実

| 具体的な取組名                     | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み                                      |
|-----------------------------|------|---|------|---|
| 結婚支援イベントの開催<br>(広域連携事業・町事業) | ○    | 木曽広域連携、町単独事業合せて2回のイベントを行った。コロナ禍での実施で、予定していた回数よりも少なくなったが、気軽に参加できる利点もあった。 | B    | 引き続き結婚支援を行う。広域連携と町独自事業についてもコロナ対策を徹底のうえ実施する。 |

|                       |   |  |   |                                  |
|-----------------------|---|--|---|----------------------------------|
| 結婚支援イベント参加者への参加費補助    | ○ | 町単独事業については無料実施であったため実績なし。  | B | 参加者支援について継続的に行っていく。              |
| 長野結婚支援ネットワーク等への参加     | ○ | 結婚支援ネットワークに参加し、県と連携をとることで利用者への支援充実を図る。具体的な相談などは直接なかったが、情報発信に努めた。 | B | 今後も継続的に取り組む。                     |
| 結婚相談所及び結婚時の経済支援の在り方検討 | ○ | 新生活応援事業補助を創設し、支援対象者に周知を行った。                                      | B | 今後も結婚及び町への定住をする若者世帯への支援策を検討していく。 |

## 施策4-2 出産・子育てに対する負担軽減

| 指標名 (KPI)       | 年       | 単位   | 基準値 | R2 | R3 | R4 | 目標 (R6) |
|-----------------|---------|--|-----|----|----|----|---------|
| 出生数に占める第3子以降の割合 | 目安値     | %  | H30 | 22 | 23 | 24 | 26      |
|                 | 実績値     |  | 21  | 33 | 50 |    |         |
|                 | 進捗区分    |  |     | 順調 | 順調 |    |         |
|                 | 進捗状況の分析 | 目標を達成できたが、出生数全体では大幅に減少しているなかの割合であり、実際の第3子以降の人数は減少している。 |     |    |    |    |         |
|                 | 今後の取組み  | 定住・子育ての各種施策の展開により、1世帯当たりの子どもの数を人口増となる第3子出生割合の増を目指す。    |     |    |    |    |         |

### 1 出産に対するサポートの充実

| 具体的な取組名        | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|----------------|------|--|------|---|
| 妊婦産婦一般健康診査等の支援 | ○    | 母子保健法に基づき一人あたり超音波、追加検査を含む14回分を町受診票または償還払いにより26名に補助している。母子手帳発行時に交付しているため、利用率が高い。            | A    | 実施率100%で住民周知度高く利用率も高い。健診後の支援にもつながっていくため継続実施。  |
| 出産祝金の支給        | ○    | 一時金的な本事業をあてにすることは考えにくく、直接的な効果は不明確であるが、子育てに係る費用の一助としてのニーズは高い。令和3年度13名260千円                  | A    | 出産1児につき2万円を継続して実施する。  |
| 不妊・不育治療助成      | ○    | 夫婦1組に対し1年度1回、通算5回を限度として助成。治療費の9割(限度額50万円)を支給。平成元年には住所要件の見直しを行った。令和3年度申請1組、助成額500千円の申請があった。 | B    | 不妊、不育には高額な費用がかかるため、治療費の一部を助成し、経済的及び精神的負担軽減を図るため、継続して実施する。R4.4.1から一部治療内容が保険適用となった。町の補助制度のみなおしも行っていきたい。 |

## 2 子育てサポートの充実

| 具体的な取組名          | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------|------|--|------|---|
| 子育て応援給付金         | ○    | 交付事業の3年目を終え、給付対象の保護者等に事業評価となる意向調査を実施し検証する中で、継続的に支援を希望する意見が多くあった。今後も給付金事業の検証は図り支援を図る。                           | B    | 給付対象が2年間であるので、給付対象者に事業検証を行い、次年度に向けて検討していく。給付制度については、子育て支援全般としても検証していく。                    |
| 乳幼児一時預かり         | ○    | 保護者の希望に応じて対応しているが、1週間前の事前申込みなどの手続きが必要であることや、核家族化は進んではいるが祖父母等の協力を得られる家庭もあり、例年並みの利用状況となっている。                     | A    | 令和4年度からこども園への移行に伴い、前日申込でできる限り保護者の希望にあった対応ができるように実施していく。実施内容のPR等を図り多くの方に、ご利用していただけるよう取り組む。 |
| おやこのひろば          | ○    | コロナ禍でありイベントの実施は控えたが、通常の利用で実施を行った。利用を控える家庭もあったが、例年並みの利用状況となった。親と子の遊びや保護者の相談に応じ、子育てを安心してできる環境を引き続き確保していく。        | A    | 引き続きコロナ対策を講じて、保護者が安心して利用ができるよう取り組んでいく。子育てに関する各種相談に応じて必要な支援を展開する。                          |
| ミニ・ファミリーサポートセンター | ○    | 支援者と利用者のマッチングにより実施するが、支援者確保や利用者希望にあった要件が合わず効果的な利用ができていない。  | C    | 支援者の確保を図りつつ、効果的に事業が実施できる体制を図っていく。   |
| ブックスタート事業        | ○    | 親と子で本を楽しむことや子どもが本に親しみを持てるよう絵本をプレゼントし、大変喜ばれている。   | B    | 引き続き事業の継続を図る。   |
| 保育園児健診           | ○    | 法定検査として年2回の内科健診と年1回の歯科健診を実施。   | A    | 継続して実施していく。   |
| 新生児訪問            | ○    | 母子の心身の状況や養育環境などの把握と子育て支援を目的として生後3か月までの乳児の家庭訪問を保健師・在宅助産師で実施している。乳児家庭訪問全戸事業として交付金対応。令和3年度年度13人に実施、里帰り分娩等への対応も実施。 | A    | 住民への周知度やニーズからも有効な事業である。産後うつの子エック、虐待防止、予防接種の個別説明の機会としても有効である。在宅助産師は木曾町からお願いしており今後の人材確保が課題。 |

|                                 |   |   |   |
|---------------------------------|---|---|---|
| 離乳食教室                           | ○ | <p>■子どもすくすく<br/>子どもの健やかな成長に必要な食育を保護者と共有を図りつつ、子育ての相談等に応じている。<br/>同世代の子どもをもつ保護者同士の交流などもできている。</p> <p>■健康しあわせ<br/>乳児期の成長段階に合わせて離乳食の試食を兼ね、参加者同士の交流も図りながら実施。参加延人数 24 名、事業費 58 千円。</p>                          | <p>A</p> <p>■子どもすくすく<br/>継続的に実施する。少子化に伴い保護者同士の交流も少なくなっているため、教室の開催により保護者間の交流も一緒にできるよう実施していく。</p> <p>■健康しあわせ<br/>参加率も高く住民のニーズは高い。子供の健全な育成と子育て支援目的で実施継続必要。</p> |
| 産後ケア・2 か月児相談・乳児健診・幼児健診・5 歳児健診事業 | ○ | 産後ケアでは、支援の必要な産後の母子のサポートしていく。健診により、児の成長発達を保護者共に確認。出産から子育てまで、健診等で親子と関わりながら保護者の相談、必要な支援に繋げている。   | A<br>継続して出産から子育てまで親子と関わりながら相談、支援を実施していく。  |
| 公園の整備                           | ○ | 町内の遊具の安全点検を実施している。管理は地域等で行い修繕が必要な場合は町が主に対応している。<br>近年、子どもが集まり遊べる場所を希望する話もあり、今後検討していく必要がある。  | B<br>点検は安心して利用ができるように継続的に実施していく。<br>まとまった遊具の設置等は、設置の場所や内容も含めて総合的に検討していく必要がある。   |
| 通園バスの運行                         | ○ | <p>○子どもすくすく係<br/>町の独自事業として、遠距離家庭への支援として通園バスの運行をしている。引き続き運行を行う。<br/>貸切バスの運行を運行業者から求められているため、地域バス担当と連携して効率的な運行となるように進めていく。</p> <p>○元気なまちづくり係<br/>教育委員会部局で運行。保育所の統合に対する対応や子育て支援事業の一環（保護者の負担軽減）として実施している。</p> | <p>A</p> <p>○子どもすくすく係<br/>遠距離家庭の子育て支援として、継続してバス運行を実施する。子育て支援対策に重点を置きながら少子化対策を図る。</p> <p>○元気なまちづくり係<br/>今後も引き続き実施する。</p>                                     |

### 3 子育て世帯の負担の軽減

| 具体的な取組名            | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み  |
|--------------------|------|---|------|---|
| 子どもの医療費無償化         | ○    | 平成30年8月から長野県では現物給付方式が採用され、県内の医療機関での窓口無料化が可能となった。(1レプト300円の負担は継続)<br>南木曾町は18歳まで対象としている。                                | A    | 窓口無料化は可能となり、今後他の市町村の状況を注視していく。但し、県外についての窓口無料化は現在の状況では難しい。 |
| 乳児一般健康診査           | ○    | 母子保健法により乳児の健康を守るため医療機関に委託し健診料金の補助および償還払いで実施。1カ月健診として実施。   | A    | 交付時に住民への周知必要。医療機関との連携で実施率向上に努め継続して実施する。                   |
| 保育料第3子減免           | ○    | 子育て家庭の経済的な支援として効果的。   | A    | 保護者の負担軽減対策と子育て支援の一体的な対策として、継続して実施する。                      |
| 子育て応援給付金（再掲）       | ○    | 子育て家庭の経済的な支援として効果的。   | B    | 子育て家庭の経済的な支援として令和3年度までの時限制度として実施。令和3年度事業検証を行い継続的な支援を検討する。 |
| インフルエンザ等任意予防接種助成事業 | ○    | 成人風疹予防接種、小児の流行性耳下腺炎予防接種、1歳～15歳対象のインフルエンザ予防接種、ロタウイルス感染症予防接種の助成を実施。満15歳、18歳のインフルエンザ予防接種を1回に限り無料。(ロタウイルス令和2年10月から定期予防接種) | B    | コロナ禍ということもあり、インフルエンザ予防接種は接種率が高くなっている。今後も子育て支援として継続必要。     |
| 親子歯科健診             | ○    | 幼児期における虫歯予防の推進、保護者の歯の健康に関する意識向上のため子供の3歳児健診に合わせて、歯科健診、歯科保健指導を水野歯科医院に委託して実施。令和3年度1名受診。                                  | C    | 子供の3歳児健診の通知に合わせて通知しているが、健診を受診する人が少ない。広報などを行い、継続して実施する。    |
| 保育園給食費無償           | ○    | 子育て家庭の経済的な支援として効果的。   | A    | 継続して実施。<br>より魅力的な給食となるよう進める。                              |



### 施策4-3 教育の充実

| 指標名 (KPI)              | 年       | 単位   | 基準値 | R2   | R3   | R4 | 目標 (R6) |
|------------------------|---------|--|-----|------|------|----|---------|
| 総合型スポーツクラブ会員加入率 (小中学生) | 目安値     | %  | H30 | 70   | 70   | 70 | 70      |
|                        | 実績値     |  | 68  | 67.2 | 67   |    |         |
|                        | 進捗区分    |  |     | 概ね順調 | 概ね順調 |    |         |
|                        | 進捗状況の分析 | スポーツ活動を行っている児童・生徒数の増減で実績値が変動している状況は変わりがない。なぎそチャレンジクラブの広報誌等で加入促進を図っているが、目標値に届かない状況である。<br>小学生加入 123人/190人<br>中学生加入 72人/103人 |     |      |      |    |         |
|                        | 今後の取組み  | スポーツ活動を行うのは、児童・生徒の自発的要因が大きいため、軽スポーツを含め楽しめるイベント等、感染症対策等へのストレス発散・心身の健康を保てるような活動をなぎそチャレンジクラブと共に研究し、加入促進に役立てたい。                |     |      |      |    |         |
| 小中学校の1人あたりの年間図書借入数     | 目安値     | 冊  | H30 | 85   | 85   | 86 | 88      |
|                        | 実績値     |  | 84  | 68   | 104  |    |         |
|                        | 進捗区分    |  |     | 概ね順調 | 順調   |    |         |
|                        | 進捗状況の分析 | 図書の充実、館内レイアウト等の工夫により、概ね順調である。  |     |      |      |    |         |
|                        | 今後の取組み  | 図書にふれあう機会が増え、親んでもらえるよう引き続き、購入図書選定・蔵書方法等の工夫に取り組んでいく。  |     |      |      |    |         |
| 地元中学校の蘇南高校への進学率        | 目安値     | %  | H30 | 50   | 53   | 55 | 60      |
|                        | 実績値     |  | 43  | 48   | 52   |    |         |
|                        | 進捗区分    |  |     | 概ね順調 | 概ね順調 |    |         |
|                        | 進捗状況の分析 | 中学校3学年生を対象に学校紹介、体験入学を実施。多くの生徒に進学先として選ばれるよう学校の魅力を伝えている。   |     |      |      |    |         |
|                        | 今後の取組み  | 早い段階で進学先として選択してもらえるよう、中学校2学年生に対するPR活動、感染症対策に配慮しつつ、小学校児童との交流の方法等を検討していく。  |     |      |      |    |         |

|       |         |  |     |    |    |   |              |
|-------|---------|--|-----|----|----|---|--------------|
| 連携大学数 | 目安値     | 校  | H30 | —  | —  | — | 2<br>(R2~R6) |
|       | 実績値     |  | —   | 2  | 2  |   |              |
|       | 進捗区分    |  |     | 順調 | 順調 |   |              |
|       | 進捗状況の分析 | 名城大学・名古屋外国語大学との包括連携協定により年間通じて事業を実施できた。                             |     |    |    |   |              |
|       | 今後の取組み  | 昨年度に続き事業を継続していく。係間の連携を行い、戦略室のみでなく、町全体として関わっていく事業としていくよう役場内部に浸透させる。 |     |    |    |   |              |

## 1 多様な価値観を伸ばす教育の推進

| 具体的な取組名          | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------|------|--|------|---|
| 土曜日の教育活動推進事業     | ○    | 感染症に対して、参加者等の安全確保を考慮し、未実施  | E    | 状況を見ながら、内容等精査・検討・計画し、実施に努める。                                |
| 体験学習の実施          | ○    | 感染症に対して、参加者等の安全確保を考慮し、未実施  | E    | 状況を見ながら、内容等精査・検討・計画し、実施に努める。                                |
| 放課後子ども教室         | ○    | 核家族化や少子化により地域で子どもが過ごす場所が少なくなる中で、放課後等の子どもの居場所として効果的。                  | A    | 放課後等の子どもの居場所として安心して利用ができるよう継続して実施する。                        |
| 総合型スポーツクラブ支援（再掲） | ○    | 支援として補助金の交付、少年スポーツ事業の委託を継続して行っている。また、令和2年度より町職員1名が出向し、活動支援の充実を図っている。 | B    | 今後のなぎそチャレンジクラブの支援を行っていくため、長期的な財政計画、事業計画等の作成について協力し検討していきたい。 |

## 2 南木曽の地域性を活かした教育の推進

| 具体的な取組名          | 実施状況 | 実施状況の説明   | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------|------|---|------|---|
| セカンドブック・サードブック事業 | ○    | セカンドブック：小学校入学記念に贈呈(R4.4月/24名)<br>サードブック：中学校卒業記念に贈呈(R4.3月/30名)   | A    | ブックスタートと合わせ、家庭での読書の定着や子どもたちの豊かな感性や表現力、思考力、想像力、創造力が育つこと、人生の友となる本に出会ってほしい願い・思いを込め、選書本の見直しを定期的に行いながら継続する。                |
| 学校給食への地元食材利用（再掲） | ○    | ■総務学校<br>農林係、地産地消推進会議の協力を得ながら、地元の四季の野菜を食べてもらうことができた。主食である米も地元南部産コシヒカリを使用し、町費で100%補助を行った。<br><br>■農林<br>学校給食への食材提供運搬費の補助を実施。 | A    | ■総務学校<br>地元の旬の野菜、食材等を給食に取り入れることで食の安全やおいしい給食で残菜減、食育に役立てたい。米の購入費を町費全額負担にすることで、保護者負担の軽減を図る。<br><br>■農林<br>引続き、運搬補助を実施する。 |
| ALT の設置          | ○    | 民間会社に委託し英語指導助手を小中学校、社会人英会話教室に配置し、児童生徒等に生きた英語を身近に捉えてもらうことで習得に活かすとともに、外国の文化や生活習慣を知る良い機会としている。                                 | A    | グローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づく体制整備で小中高を通じた英語教育の充実推進のため、引き続き取り組む。   |

## 3 蘇南高等学校の発展支援

| 具体的な取組名                             | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|-------------------------------------|------|--|------|---|
| 同窓会支援事業(蘇南アカデミー・海外語学研修補助・生徒の下宿先の確保) | ○    | 同窓会や下宿受入先管理人と連絡調整しながら、必要な支援を行っている。海外語学研修は世界的なコロナ感染症の状況により、3年(R1~R3)連続で中止となったが、代替のセミナーへの支援を行った。 | A    | 特色や魅力ある学校づくりを目指し、引き続き関係者の協力を得て、取り組んでいく。令和4年度からはICT活用についての支援も実施する。 |

#### 4 平等な教育機会の確保

| 具体的な取組名          | 実施状況 | 実施状況の説明  | 事業効果 | 今後の取組み  |
|------------------|------|--|------|---|
| クラス数確保のための教員の雇用  | ○    | 少人数学級による一人ひとりに応じた指導の充実や発展的学習・補充的学習により学習習慣・生活習慣の定着と基礎学力の向上を図る。町クラス編成基準を30人以上（県35人以上）2クラスとし、県基準に満たない場合は、町単独で教員を雇用。 | A    | 少人数学級によるメリット、デメリットを検証しつつ継続して取組む。  |
| 遠距離通学地域への定期券購入   | ○    | 遠距離通学地域生徒（田立地区中学生）への定期券購入の補助を行い教育の振興を図った。  | A    | JR南木曽駅・田立駅の利用、公共交通機関を使用することで社会的な学習も兼ねているため、継続して取組む。                                   |
| スクールバスの運行        | ○    | 地域バスとの調整を図りながら、安全に運行できるよう関係各所と打ち合わせながら取り組んだ。   | A    | 地域バス混乗線との調整を図りながら、安全に運行できるよう関係各所と綿密に打ち合わせながら取組む。                                      |
| 信州型コミュニティスクールの推進 | ○    | 新型コロナウイルス感染拡大防止を講じながら、田植え、稲刈りなど例年どおり実施している事業については、継続的に行った。   | A    | 例年どおり活動の実施していく。また、信州型から国型への移行について県内及び郡内の状況を研究し、中信教育事務所に相談しながら検討していく。                  |
| 入学祝品の支給          | ○    | 小学校入学「鍵盤ハーモニカ」、中学校入学「体操着」を支給。  | A    | 保護者負担の軽減を図るため、継続して取組む。  |
| 英語検定等検定料補助       | ○    | 英語、数学及び漢字検定にかかる検定料全額を補助。<br>R2:108件<br>R3:79件<br><br>※各検定について年度内1回に限る。   | A    | 学習成果の確認や目標をもって検定に挑む等、学力や学習意欲の向上が期待される他、保護者負担の軽減を図るため、継続して取組む。なお、今後小学生への補助についても研究していく。 |

## 5 大学・企業等との連携

| 具体的な取組名                         | 実施状況 | 実施状況の説明  |   | 今後の取組み  |
|---------------------------------|------|--|---|---|
| 大学との連携協定(人材の育成と関係人口の拡大)<br>(再掲) | ○    | 連携協定を結んだ大学生との交流を進め、南木曾中学校生徒との学習支援事業が行われた。オンライン上ではあるが、今後も継続的に取り組んでいく。                               | B | 中学生との学習支援事業は引き続き行う。名城大学では建築学科があるため、空き家対策について興味を示していただいているため情報共有しながら取り組んでいく。 |
| 妻籠宿へのゼミ合宿等の誘致                   | ○    | 歴史文化を研究する学生が妻籠宿を訪れ地域を通じ様々な課題解決方法を検討する等、地元の住民では思いもしない視点での着眼点を期待していたが、コロナ禍により行えなかった。                 | E | 大学との協議を行い、オンラインを含めた研究方法について模索していく。  |
| 町並保存運動の学問の構築                    | ○    | 当時保存に関わった人への聞き取りや、保存についての記録冊子を参考に研究する必要がある。  | E | 引き続き、学校が行う地域学習、地域交流活動の支援を行う。  |
| フィールドワークの場の構築                   | ○    | 令和3年度は、妻籠宿や空き家等の課題も情報提供しながら観光面と移住定住について情報発信について大学生に考えていただいた。妻籠宿を中心にとはいかなかったが、全庁的にフィールドワークの場を提供できた。 | B | 今年度も違った視点で町の課題にスポットを当てた課題研究を進めていく。  |
| 山本学園(緑誠蘭高等学校)への支援               | ○    | 令和2年4月に蘭本校、サテライト校(塩尻、中津川、知立)が開校した。コロナウイルスの影響も受けたが、学校運営は概ね順調であった。                                   | B | 引き続き、学校が行う地域学習、地域交流活動の支援を行う。  |